

第8章 環境影響の総合的な評価

本環境影響評価では、本事業による事業特性及び地域特性を勘案し、大気質、騒音、振動、悪臭、水質、土壌、動物、植物、生体系、景観、人と自然の触れ合いの活動の場、廃棄物等及び温室効果ガス等の13項目の環境要素を対象に計画段階での環境保全措置を勘案して調査し、予測及び評価を行った。各環境要素の調査、予測及び評価の結果の概要は、表8-1.1～表8-1.22に示すとおりである。

また、「第6章 環境保全措置」で示す環境保全措置は、実施に伴う他の環境要素に及ぼす影響はないが、環境影響評価項目によっては事後調査を実施し、予測の不確実性の観点から予測結果を検証するとともに、工事着手以後における環境の状態を把握することとしている。なお、環境への著しい影響が確認された場合またはおそれがある場合には、必要な措置を講じることで環境影響を低減するものとしている。

以上のことから、本事業は、事業者の実行可能な範囲において対象事業の実施に伴う環境影響についてできる限り低減が図られたものであり、総合的な環境への影響の程度は小さいものと評価する。

表 8-1.1(1) 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																
大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	工事の実施（建設機械の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>対象事業実施区域（St.1）における通年の気象及び大気質の調査結果は以下に示すとおりである。</p> <p>・気象</p> <p>＜地上気象調査結果（通年）（風向・風速）＞</p> <table border="1" data-bbox="305 699 863 1304"> <thead> <tr> <th rowspan="3">調査時期</th> <th colspan="2">風速</th> <th colspan="2">風向</th> <th rowspan="3">静穏率</th> </tr> <tr> <th>最高</th> <th>最低</th> <th>風向</th> <th>出現率</th> </tr> <tr> <th>m/s</th> <th>m/s</th> <th>16方位</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9月</td><td>3.0</td><td>0.3</td><td>北</td><td>16.5</td><td>29.6</td></tr> <tr><td>10月</td><td>2.1</td><td>0.5</td><td>北</td><td>21.8</td><td>37.4</td></tr> <tr><td>11月</td><td>1.8</td><td>0.3</td><td>北</td><td>14.3</td><td>40.4</td></tr> <tr><td>12月</td><td>2.8</td><td>0.3</td><td>北</td><td>11.6</td><td>27.6</td></tr> <tr><td>1月</td><td>2.9</td><td>0.4</td><td>北</td><td>16.9</td><td>25.8</td></tr> <tr><td>2月</td><td>3.3</td><td>0.6</td><td>北</td><td>18.8</td><td>16.4</td></tr> <tr><td>3月</td><td>2.5</td><td>0.6</td><td>北</td><td>20.7</td><td>29.3</td></tr> <tr><td>4月</td><td>2.3</td><td>0.6</td><td>北</td><td>17.1</td><td>28.1</td></tr> <tr><td>5月</td><td>2.8</td><td>0.5</td><td>北</td><td>12.6</td><td>25.3</td></tr> <tr><td>6月</td><td>2.0</td><td>0.4</td><td>北</td><td>12.2</td><td>32.1</td></tr> <tr><td>7月</td><td>1.9</td><td>0.5</td><td>北</td><td>13.0</td><td>30.6</td></tr> <tr><td>8月</td><td>2.8</td><td>0.4</td><td>北</td><td>12.2</td><td>31.0</td></tr> </tbody> </table>	調査時期	風速		風向		静穏率	最高	最低	風向	出現率	m/s	m/s	16方位	%	9月	3.0	0.3	北	16.5	29.6	10月	2.1	0.5	北	21.8	37.4	11月	1.8	0.3	北	14.3	40.4	12月	2.8	0.3	北	11.6	27.6	1月	2.9	0.4	北	16.9	25.8	2月	3.3	0.6	北	18.8	16.4	3月	2.5	0.6	北	20.7	29.3	4月	2.3	0.6	北	17.1	28.1	5月	2.8	0.5	北	12.6	25.3	6月	2.0	0.4	北	12.2	32.1	7月	1.9	0.5	北	13.0	30.6	8月	2.8	0.4	北	12.2	31.0	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事期間の中で、建設機械の台数、配置及び稼働時間が最大となる条件として行った。</p> <p>建設機械の稼働に伴う大気質の予測結果は以下に示すとおりである。</p> <p>建設機械の寄与濃度は、予測対象敷地境界区間の最大地点において、窒素酸化物が0.0364ppmで寄与率は82.0%、浮遊粒子状物質が0.0021mg/m³で、寄与率は12.3%であった。直近民家においては、窒素酸化物が0.0038ppmで、寄与率は32.2%、浮遊粒子状物質が0.0002mg/m³で寄与率は1.3%であった。</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う窒素酸化物の予測結果（年平均値）＞ 単位：ppm</p> <table border="1" data-bbox="899 909 1644 1119"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>建設機械寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>0.0364</td> <td>0.008</td> <td>0.0444</td> <td>82.0</td> </tr> <tr> <td>St.1 直近民家</td> <td>0.0038</td> <td>0.008</td> <td>0.0118</td> <td>32.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜建設機械の稼働に伴う浮遊粒子状物質の予測結果（年平均値）＞ 単位：mg/m³</p> <table border="1" data-bbox="899 1224 1644 1434"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>建設機械寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>0.0021</td> <td>0.0150</td> <td>0.0171</td> <td>12.3</td> </tr> <tr> <td>St.1 直近民家</td> <td>0.0002</td> <td>0.0150</td> <td>0.0152</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	建設機械寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0364	0.008	0.0444	82.0	St.1 直近民家	0.0038	0.008	0.0118	32.2	予測地点	建設機械寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0021	0.0150	0.0171	12.3	St.1 直近民家	0.0002	0.0150	0.0152	1.3	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 排出ガス対策型機械の使用：建設機械は、排出ガス対策建設機械を使用し、整備、点検を徹底する。 建設機械の稼働分散：できる限り建設機械の稼働が集中することがないように、使用時期や配置の分散にも努める。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業方法の配慮：建設機械の不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップを遵守するよう作業員への指導・徹底を行う。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、建設機械の稼働に伴う大気質への影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲で回避または低減が期待できるものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う二酸化窒素の評価結果（長期平均濃度）＞</p> <table border="1" data-bbox="2027 1062 2531 1325"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">予測結果（ppm）</th> <th rowspan="2">環境保全目標</th> </tr> <tr> <th>年平均値</th> <th>日平均値の年間98%値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>0.0259</td> <td>0.05</td> <td>日平均値の年間98%値が0.04～</td> </tr> <tr> <td>St.1 直近民家</td> <td>0.0094</td> <td>0.02</td> <td>0.06ppm以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注）環境保全目標は「二酸化窒素に係る環境基準について」に適用される基準</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う浮遊粒子状物質の評価結果（長期平均濃度）＞</p> <table border="1" data-bbox="2027 1507 2531 1770"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">予測結果（mg/m³）</th> <th rowspan="2">環境保全目標</th> </tr> <tr> <th>年平均値</th> <th>日平均値の2%除外値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>0.0171</td> <td>0.04</td> <td>日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>St.1 直近民家</td> <td>0.0152</td> <td>0.04</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）環境保全目標は「大気汚染に係る環境基準について」に適用される基準</p>	予測地点	予測結果（ppm）		環境保全目標	年平均値	日平均値の年間98%値	予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0259	0.05	日平均値の年間98%値が0.04～	St.1 直近民家	0.0094	0.02	0.06ppm以下	予測地点	予測結果（mg/m ³ ）		環境保全目標	年平均値	日平均値の2%除外値	予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0171	0.04	日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下	St.1 直近民家	0.0152	0.04		<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
調査時期	風速			風向		静穏率																																																																																																																																																
	最高	最低		風向	出現率																																																																																																																																																	
	m/s	m/s	16方位	%																																																																																																																																																		
9月	3.0	0.3	北	16.5	29.6																																																																																																																																																	
10月	2.1	0.5	北	21.8	37.4																																																																																																																																																	
11月	1.8	0.3	北	14.3	40.4																																																																																																																																																	
12月	2.8	0.3	北	11.6	27.6																																																																																																																																																	
1月	2.9	0.4	北	16.9	25.8																																																																																																																																																	
2月	3.3	0.6	北	18.8	16.4																																																																																																																																																	
3月	2.5	0.6	北	20.7	29.3																																																																																																																																																	
4月	2.3	0.6	北	17.1	28.1																																																																																																																																																	
5月	2.8	0.5	北	12.6	25.3																																																																																																																																																	
6月	2.0	0.4	北	12.2	32.1																																																																																																																																																	
7月	1.9	0.5	北	13.0	30.6																																																																																																																																																	
8月	2.8	0.4	北	12.2	31.0																																																																																																																																																	
予測地点	建設機械寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																																																																																		
予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0364	0.008	0.0444	82.0																																																																																																																																																		
St.1 直近民家	0.0038	0.008	0.0118	32.2																																																																																																																																																		
予測地点	建設機械寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																																																																																		
予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0021	0.0150	0.0171	12.3																																																																																																																																																		
St.1 直近民家	0.0002	0.0150	0.0152	1.3																																																																																																																																																		
予測地点	予測結果（ppm）		環境保全目標																																																																																																																																																			
	年平均値	日平均値の年間98%値																																																																																																																																																				
予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0259	0.05	日平均値の年間98%値が0.04～																																																																																																																																																			
St.1 直近民家	0.0094	0.02	0.06ppm以下																																																																																																																																																			
予測地点	予測結果（mg/m ³ ）		環境保全目標																																																																																																																																																			
	年平均値	日平均値の2%除外値																																																																																																																																																				
予測対象敷地境界区間の最大地点	0.0171	0.04	日平均値の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下																																																																																																																																																			
St.1 直近民家	0.0152	0.04																																																																																																																																																				

表 8-1.1(2) 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																				
大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	工事の実施（建設機械の稼働）	<p>・大気質</p> <p>バックグラウンド濃度は、対象事業実施区域で実施した現地調査結果の年平均値とした。</p> <p>＜バックグラウンド濃度（年平均値）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>バックグラウンド濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>窒素酸化物（ppm）</td> <td>0.008</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質（mg/m³）</td> <td>0.0150</td> </tr> </tbody> </table>	項目	バックグラウンド濃度	窒素酸化物（ppm）	0.008	浮遊粒子状物質（mg/m ³ ）	0.0150																																																																																		
項目	バックグラウンド濃度																																																																																									
窒素酸化物（ppm）	0.008																																																																																									
浮遊粒子状物質（mg/m ³ ）	0.0150																																																																																									
大気質（粉じん等）	工事の実施（建設機械の稼働及び土地の改変）	<p>・大気質</p> <p>バックグラウンド濃度は、対象事業実施区域における降下ばいじんの現地調査結果とした。</p> <p>＜バックグラウンド濃度＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>時期</th> <th>バックグラウンド濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">降下ばいじん (t/km²/月)</td> <td>秋季</td> <td>0.72</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>2.20</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>1.20</td> </tr> </tbody> </table>	項目	時期	バックグラウンド濃度	降下ばいじん (t/km ² /月)	秋季	0.72	冬季	0.99	春季	2.20	夏季	1.20	<p>■予測結果</p> <p>工事の実施における、建設機械の稼働及び土地の改変に伴う粉じん等が対象事業実施区域周辺の大気質に及ぼす影響について予測した。</p> <p>建設機械の稼働及び土地の改変に伴う粉じん等の予測結果は、工事区域外の最大着地濃度地点において、7.31～10.07t/km²/月で寄与率は80.5～91.0%であった。直近民家においては0.10～0.29t/km²/月で寄与率は4.3～22.7%であった。</p> <p>＜建設機械の稼働及び土地の改変に伴う粉じん等の予測結果＞ 単位：t/km²/月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時期</th> <th>寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">最大着地濃度地点</td> <td>秋季</td> <td>7.31</td> <td>0.72</td> <td>8.03</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>8.88</td> <td>0.99</td> <td>9.87</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>9.11</td> <td>2.20</td> <td>11.31</td> <td>80.5</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>10.07</td> <td>1.20</td> <td>11.27</td> <td>89.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.1 直近民家</td> <td>秋季</td> <td>0.14</td> <td>0.72</td> <td>0.86</td> <td>16.3</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.29</td> <td>0.99</td> <td>1.28</td> <td>22.7</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>0.10</td> <td>2.20</td> <td>2.30</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.17</td> <td>1.20</td> <td>1.37</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	時期	寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	最大着地濃度地点	秋季	7.31	0.72	8.03	91.0	冬季	8.88	0.99	9.87	90.0	春季	9.11	2.20	11.31	80.5	夏季	10.07	1.20	11.27	89.4	St.1 直近民家	秋季	0.14	0.72	0.86	16.3	冬季	0.29	0.99	1.28	22.7	春季	0.10	2.20	2.30	4.3	夏季	0.17	1.20	1.37	12.4	<p>■事業計画上実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮囲いの設置：建設機械の稼働等による砂の巻き上げや土砂等の飛散を防止するため、施工区域の周囲にフェンス等の仮囲いを設置する。 ・飛散防止措置：場内は適宜散水を行うほか、掘削土等を仮置きする場合は、シートなどで覆い、粉じんの飛散を防止する。 ・工事用車両の洗浄：工事用車両は、洗車を行い、構内で車輪・車体等に付着した土砂を十分除去したことを確認した後に退出する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、建設機械の稼働及び土地の改変に伴う粉じん等の影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲で回避または低減が期待できるものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>建設機械の稼働及び土地の改変に伴う粉じん等の評価結果は、下記に示すとおりであり、夏季において予測対象敷地境界区間の最大地点で環境保全目標をわずかに上回った。ただし、この予測結果には環境保全措置の効果は反映されていないため、工事の実施にあたっては、環境保全措置を適切に実施することで、粉じん等の影響はより低減されるものと評価する。</p> <p>また、直近民家においては、全季節で環境保全目標を満足することから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う粉じん等の評価結果＞ 単位：t/km²/月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時期</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>秋季</td> <td>7.31</td> <td rowspan="4">10</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>8.88</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>9.11</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>10.07</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.1 直近民家</td> <td>秋季</td> <td>0.14</td> <td rowspan="4">10</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>0.29</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>0.10</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.17</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」に適用される基準</p>	予測地点	時期	予測結果	環境保全目標	予測対象敷地境界区間の最大地点	秋季	7.31	10	冬季	8.88	春季	9.11	夏季	10.07	St.1 直近民家	秋季	0.14	10	冬季	0.29	春季	0.10	夏季	0.17	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。ただし、予測結果は、予測対象敷地境界区間の最大地点において夏季に環境保全目標をわずかに上回ったほか、その他の時期においても環境保全目標に近い値であった。なお、この予測結果には環境保全措置の効果は反映されていない。そこで、事後調査を実施し、環境保全措置により粉じん等の影響を回避または低減できているかを確認する。</p>
項目	時期	バックグラウンド濃度																																																																																								
降下ばいじん (t/km ² /月)	秋季	0.72																																																																																								
	冬季	0.99																																																																																								
	春季	2.20																																																																																								
	夏季	1.20																																																																																								
予測地点	時期	寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																					
最大着地濃度地点	秋季	7.31	0.72	8.03	91.0																																																																																					
	冬季	8.88	0.99	9.87	90.0																																																																																					
	春季	9.11	2.20	11.31	80.5																																																																																					
	夏季	10.07	1.20	11.27	89.4																																																																																					
St.1 直近民家	秋季	0.14	0.72	0.86	16.3																																																																																					
	冬季	0.29	0.99	1.28	22.7																																																																																					
	春季	0.10	2.20	2.30	4.3																																																																																					
	夏季	0.17	1.20	1.37	12.4																																																																																					
予測地点	時期	予測結果	環境保全目標																																																																																							
予測対象敷地境界区間の最大地点	秋季	7.31	10																																																																																							
	冬季	8.88																																																																																								
	春季	9.11																																																																																								
	夏季	10.07																																																																																								
St.1 直近民家	秋季	0.14	10																																																																																							
	冬季	0.29																																																																																								
	春季	0.10																																																																																								
	夏季	0.17																																																																																								

表 8-1.2 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																																																													
大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	工事の実施（工事車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <p>沿道環境（St.2～St.5）における四季の気象及び大気質の調査結果は以下に示すとおりである。</p> <p>・気象</p> <p>＜地上気象調査結果(四季)（風向・風速）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="4">調査時期</th> <th colspan="2">風速</th> <th colspan="2">風向</th> <th rowspan="4">静穏率</th> </tr> <tr> <th colspan="2">日平均</th> <th colspan="2">最多風向</th> </tr> <tr> <th>最高</th> <th>最低</th> <th>風向</th> <th>出現率</th> </tr> <tr> <th>m/s</th> <th>m/s</th> <th>16方位</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">St.2</td> <td>秋季</td> <td>2.4</td> <td>0.5</td> <td>東北東</td> <td>17.9</td> <td>44.0</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>2.1</td> <td>0.4</td> <td>東北東</td> <td>19.0</td> <td>47.6</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>1.9</td> <td>0.7</td> <td>東北東</td> <td>16.7</td> <td>32.7</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>0.9</td> <td>0.5</td> <td>東南東</td> <td>8.9</td> <td>53.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.3</td> <td>秋季</td> <td>2.1</td> <td>0.9</td> <td>南南西</td> <td>16.7</td> <td>17.3</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>1.6</td> <td>0.8</td> <td>南</td> <td>18.5</td> <td>22.6</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>2.3</td> <td>1.2</td> <td>南</td> <td>16.1</td> <td>18.5</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>1.6</td> <td>1.2</td> <td>南</td> <td>34.5</td> <td>24.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.4</td> <td>秋季</td> <td>1.8</td> <td>0.6</td> <td>南南東</td> <td>11.3</td> <td>25.6</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>1.4</td> <td>0.5</td> <td>南東</td> <td>16.1</td> <td>32.1</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>2.3</td> <td>1.2</td> <td>東南東</td> <td>11.3</td> <td>19.0</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>1.6</td> <td>0.8</td> <td>南南東</td> <td>15.5</td> <td>33.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.5</td> <td>秋季</td> <td>2.6</td> <td>0.7</td> <td>北北東</td> <td>14.3</td> <td>23.8</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>1.9</td> <td>0.6</td> <td>北東、北北東</td> <td>9.5</td> <td>40.5</td> </tr> <tr> <td>春季</td> <td>1.9</td> <td>1.3</td> <td>南西</td> <td>15.5</td> <td>18.5</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>1.2</td> <td>1.0</td> <td>南西</td> <td>13.1</td> <td>31.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>・大気質</p> <p>バックグラウンド濃度は、各地点ともに四季平均値とした。</p> <p>＜バックグラウンド濃度＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>二酸化窒素 (ppm)</th> <th>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.007</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.008</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.007</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.005</td> <td>0.019</td> </tr> </tbody> </table>	調査時期	風速		風向		静穏率	日平均		最多風向		最高	最低	風向	出現率	m/s	m/s	16方位	%	St.2	秋季	2.4	0.5	東北東	17.9	44.0	冬季	2.1	0.4	東北東	19.0	47.6	春季	1.9	0.7	東北東	16.7	32.7	夏季	0.9	0.5	東南東	8.9	53.6	St.3	秋季	2.1	0.9	南南西	16.7	17.3	冬季	1.6	0.8	南	18.5	22.6	春季	2.3	1.2	南	16.1	18.5	夏季	1.6	1.2	南	34.5	24.4	St.4	秋季	1.8	0.6	南南東	11.3	25.6	冬季	1.4	0.5	南東	16.1	32.1	春季	2.3	1.2	東南東	11.3	19.0	夏季	1.6	0.8	南南東	15.5	33.9	St.5	秋季	2.6	0.7	北北東	14.3	23.8	冬季	1.9	0.6	北東、北北東	9.5	40.5	春季	1.9	1.3	南西	15.5	18.5	夏季	1.2	1.0	南西	13.1	31.5	予測地点	二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	St.6	0.007	0.017	St.7	0.008	0.017	St.8	0.007	0.015	St.9	0.005	0.019	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事車両等の走行に伴う大気質の環境影響が最大となる条件として行った。</p> <p>工事車両等の走行に伴う大気質の予測結果は以下に示すとおりである。</p> <p>工事車両の走行に伴う寄与濃度は、St.6～St.9において、二酸化窒素が0.000047～0.000071ppmで、寄与率は0.6～1.4%、浮遊粒子状物質が0.0000048～0.0000057mg/m³で、寄与率はいずれも0.0%であった。</p> <p>＜工事車両の走行に伴う二酸化窒素の予測結果（年平均値）＞ 単位：ppm</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>工事車両寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.000047</td> <td>0.007</td> <td>0.007047</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.000050</td> <td>0.008</td> <td>0.008050</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.000055</td> <td>0.007</td> <td>0.007055</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.000071</td> <td>0.005</td> <td>0.005071</td> <td>1.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜工事車両等の走行に伴う浮遊粒子状物質の予測結果（年平均値）＞ 単位：mg/m³</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>工事車両寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.0000048</td> <td>0.017</td> <td>0.0170048</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.0000054</td> <td>0.017</td> <td>0.0170054</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.0000050</td> <td>0.015</td> <td>0.0150050</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.0000057</td> <td>0.019</td> <td>0.0190057</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	工事車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	St.6	0.000047	0.007	0.007047	0.7	St.7	0.000050	0.008	0.008050	0.6	St.8	0.000055	0.007	0.007055	0.8	St.9	0.000071	0.005	0.005071	1.4	予測地点	工事車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	St.6	0.0000048	0.017	0.0170048	0.0	St.7	0.0000054	0.017	0.0170054	0.0	St.8	0.0000050	0.015	0.0150050	0.0	St.9	0.0000057	0.019	0.0190057	0.0	<p>■事業計画上実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 排出ガス規制適合車の使用：可能な限り最新の排出ガス規制適合車を使用し、整備、点検を徹底する。 工事車両の走行の分散：車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> エコドライブの実施：不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速など高負荷運転防止を徹底する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、工事車両等の走行に伴う大気質の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲で回避または低減が期待できると評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>工事車両等の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜工事車両等の走行に伴う二酸化窒素の評価結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">予測結果 (ppm)</th> <th rowspan="2">環境保全目標</th> </tr> <tr> <th>年平均値</th> <th>日平均値の年間98%値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.007047</td> <td>0.018</td> <td rowspan="4">日平均値の年間98%値が0.04～0.06ppm以下</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.008050</td> <td>0.020</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.007055</td> <td>0.018</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.005071</td> <td>0.016</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「二酸化窒素に係る環境基準について」に適用される基準</p> <p>＜工事車両等の走行に伴う浮遊粒子状物質の評価結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">予測結果 (mg/m³)</th> <th rowspan="2">環境保全目標</th> </tr> <tr> <th>年平均値</th> <th>日平均値の2%除外値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.0170048</td> <td>0.043</td> <td rowspan="4">日平均値の2%値除外値が0.10mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.0170054</td> <td>0.043</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.0150050</td> <td>0.039</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.0190057</td> <td>0.047</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「大気汚染に係る環境基準について」に適用される基準</p>	予測地点	予測結果 (ppm)		環境保全目標	年平均値	日平均値の年間98%値	St.6	0.007047	0.018	日平均値の年間98%値が0.04～0.06ppm以下	St.7	0.008050	0.020	St.8	0.007055	0.018	St.9	0.005071	0.016	予測地点	予測結果 (mg/m ³)		環境保全目標	年平均値	日平均値の2%除外値	St.6	0.0170048	0.043	日平均値の2%値除外値が0.10mg/m ³ 以下	St.7	0.0170054	0.043	St.8	0.0150050	0.039	St.9	0.0190057	0.047	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
調査時期	風速			風向		静穏率																																																																																																																																																																																																																													
	日平均			最多風向																																																																																																																																																																																																																															
	最高	最低		風向	出現率																																																																																																																																																																																																																														
	m/s	m/s	16方位	%																																																																																																																																																																																																																															
St.2	秋季	2.4	0.5	東北東	17.9	44.0																																																																																																																																																																																																																													
	冬季	2.1	0.4	東北東	19.0	47.6																																																																																																																																																																																																																													
	春季	1.9	0.7	東北東	16.7	32.7																																																																																																																																																																																																																													
	夏季	0.9	0.5	東南東	8.9	53.6																																																																																																																																																																																																																													
St.3	秋季	2.1	0.9	南南西	16.7	17.3																																																																																																																																																																																																																													
	冬季	1.6	0.8	南	18.5	22.6																																																																																																																																																																																																																													
	春季	2.3	1.2	南	16.1	18.5																																																																																																																																																																																																																													
	夏季	1.6	1.2	南	34.5	24.4																																																																																																																																																																																																																													
St.4	秋季	1.8	0.6	南南東	11.3	25.6																																																																																																																																																																																																																													
	冬季	1.4	0.5	南東	16.1	32.1																																																																																																																																																																																																																													
	春季	2.3	1.2	東南東	11.3	19.0																																																																																																																																																																																																																													
	夏季	1.6	0.8	南南東	15.5	33.9																																																																																																																																																																																																																													
St.5	秋季	2.6	0.7	北北東	14.3	23.8																																																																																																																																																																																																																													
	冬季	1.9	0.6	北東、北北東	9.5	40.5																																																																																																																																																																																																																													
	春季	1.9	1.3	南西	15.5	18.5																																																																																																																																																																																																																													
	夏季	1.2	1.0	南西	13.1	31.5																																																																																																																																																																																																																													
予測地点	二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)																																																																																																																																																																																																																																	
St.6	0.007	0.017																																																																																																																																																																																																																																	
St.7	0.008	0.017																																																																																																																																																																																																																																	
St.8	0.007	0.015																																																																																																																																																																																																																																	
St.9	0.005	0.019																																																																																																																																																																																																																																	
予測地点	工事車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																																																																																																																																																															
St.6	0.000047	0.007	0.007047	0.7																																																																																																																																																																																																																															
St.7	0.000050	0.008	0.008050	0.6																																																																																																																																																																																																																															
St.8	0.000055	0.007	0.007055	0.8																																																																																																																																																																																																																															
St.9	0.000071	0.005	0.005071	1.4																																																																																																																																																																																																																															
予測地点	工事車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																																																																																																																																																															
St.6	0.0000048	0.017	0.0170048	0.0																																																																																																																																																																																																																															
St.7	0.0000054	0.017	0.0170054	0.0																																																																																																																																																																																																																															
St.8	0.0000050	0.015	0.0150050	0.0																																																																																																																																																																																																																															
St.9	0.0000057	0.019	0.0190057	0.0																																																																																																																																																																																																																															
予測地点	予測結果 (ppm)		環境保全目標																																																																																																																																																																																																																																
	年平均値	日平均値の年間98%値																																																																																																																																																																																																																																	
St.6	0.007047	0.018	日平均値の年間98%値が0.04～0.06ppm以下																																																																																																																																																																																																																																
St.7	0.008050	0.020																																																																																																																																																																																																																																	
St.8	0.007055	0.018																																																																																																																																																																																																																																	
St.9	0.005071	0.016																																																																																																																																																																																																																																	
予測地点	予測結果 (mg/m ³)		環境保全目標																																																																																																																																																																																																																																
	年平均値	日平均値の2%除外値																																																																																																																																																																																																																																	
St.6	0.0170048	0.043	日平均値の2%値除外値が0.10mg/m ³ 以下																																																																																																																																																																																																																																
St.7	0.0170054	0.043																																																																																																																																																																																																																																	
St.8	0.0150050	0.039																																																																																																																																																																																																																																	
St.9	0.0190057	0.047																																																																																																																																																																																																																																	

表 8-1.3(1) 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																											
大気質（硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀、その他有害物質）	存在・供用（施設の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>地上気象の結果は、前述のとおりであり、上層気象の結果は以下のとおりである。また、対象事業実施区域及び周辺地域における大気質の調査結果は以下に示すとおりである。</p> <p>＜上層気象調査結果（平均風速・最多風向）＞</p> <table border="1" data-bbox="326 709 881 1129"> <thead> <tr> <th rowspan="2">高度</th> <th>風速</th> <th colspan="2">風向</th> </tr> <tr> <th>平均風速</th> <th>最多風向</th> <th>最多出現率</th> </tr> <tr> <th>m</th> <th>m/s</th> <th>16 方位</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>50</td><td>1.9</td><td>北北東</td><td>12.5</td></tr> <tr><td>100</td><td>2.9</td><td>北東</td><td>13.8</td></tr> <tr><td>150</td><td>3.8</td><td>北東</td><td>11.6</td></tr> <tr><td>200</td><td>4.4</td><td>東北東</td><td>12.1</td></tr> <tr><td>300</td><td>4.7</td><td>東</td><td>15.2</td></tr> <tr><td>500</td><td>5.1</td><td>西</td><td>12.5</td></tr> <tr><td>1,000</td><td>7.0</td><td>西南西</td><td>13.8</td></tr> <tr><td>1,500</td><td>8.4</td><td>北西</td><td>14.7</td></tr> </tbody> </table> <p>・大気質</p> <p>＜一般環境大気質調査結果（四季平均）＞</p> <table border="1" data-bbox="326 1266 881 1560"> <caption>窒素酸化物 単位：ppm</caption> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年平均値</th> <th>1 時間値の最大値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St. 1</td><td>0.008</td><td>0.055</td><td>0.024</td></tr> <tr><td>St. 2</td><td>0.008</td><td>0.058</td><td>0.026</td></tr> <tr><td>St. 3</td><td>0.008</td><td>0.050</td><td>0.030</td></tr> <tr><td>St. 4</td><td>0.008</td><td>0.062</td><td>0.026</td></tr> <tr><td>St. 5</td><td>0.007</td><td>0.050</td><td>0.022</td></tr> </tbody> </table> <p>一酸化窒素 単位：ppm</p> <table border="1" data-bbox="326 1623 881 1894"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年平均値</th> <th>1 時間値の最大値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St. 1</td><td>0.001</td><td>0.018</td><td>0.004</td></tr> <tr><td>St. 2</td><td>0.001</td><td>0.041</td><td>0.008</td></tr> <tr><td>St. 3</td><td>0.002</td><td>0.024</td><td>0.009</td></tr> <tr><td>St. 4</td><td>0.001</td><td>0.020</td><td>0.006</td></tr> <tr><td>St. 5</td><td>0.001</td><td>0.019</td><td>0.006</td></tr> </tbody> </table>	高度	風速	風向		平均風速	最多風向	最多出現率	m	m/s	16 方位	%	50	1.9	北北東	12.5	100	2.9	北東	13.8	150	3.8	北東	11.6	200	4.4	東北東	12.1	300	4.7	東	15.2	500	5.1	西	12.5	1,000	7.0	西南西	13.8	1,500	8.4	北西	14.7	調査地点	年平均値	1 時間値の最大値	日平均値の最高値	St. 1	0.008	0.055	0.024	St. 2	0.008	0.058	0.026	St. 3	0.008	0.050	0.030	St. 4	0.008	0.062	0.026	St. 5	0.007	0.050	0.022	調査地点	年平均値	1 時間値の最大値	日平均値の最高値	St. 1	0.001	0.018	0.004	St. 2	0.001	0.041	0.008	St. 3	0.002	0.024	0.009	St. 4	0.001	0.020	0.006	St. 5	0.001	0.019	0.006	<p>■予測結果</p> <p>予測は、事業計画から大気汚染物質排出量、有効煙突高を算出し、地上気象調査結果を用いて、拡散式により長期平均濃度（年平均値寄与濃度）の算出を行った。さらに、拡散式により求めた年平均値寄与濃度にバックグラウンド濃度を加算し、予測地点の年平均濃度の予測結果とした。</p> <p>また、煙突排ガスにより周辺環境への高濃度の影響が想定される条件を設定して、短時間（1 時間値）の予測を行った。</p> <p>施設の稼働に伴う大気質の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>＜長期平均濃度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期平均濃度 <p>煙突排ガスの最大着地濃度は煙源から北約 660m と予測された。最大着地濃度（年平均値）は、二酸化硫黄が 0.00049ppm（寄与率 14.0%）、窒素酸化物が 0.00081ppm（寄与率 6.9%）、浮遊粒子状物質が 0.00016mg/m³（寄与率 0.7%）、水銀が 0.00049 μgHg/m³（寄与率 24.5%）、ダイオキシン類が 0.00081pg-TEQ/m³（寄与率 4.8%）と予測する。</p> <p>＜長期平均濃度の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="911 1060 1715 1339"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>着地濃度 (A)</th> <th>バックグラウンド濃度 (B)</th> <th>年平均予測結果 (A+B)</th> <th>寄与率 (A/(A+B))</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>二酸化硫黄</td><td>ppm</td><td>0.00049</td><td>0.003</td><td>0.0035</td><td>14.0%</td></tr> <tr><td>窒素酸化物</td><td>ppm</td><td>0.00081</td><td>0.011</td><td>0.0118</td><td>6.9%</td></tr> <tr><td>浮遊粒子状物質</td><td>mg/m³</td><td>0.00016</td><td>0.023</td><td>0.0232</td><td>0.7%</td></tr> <tr><td>水銀</td><td>μgHg/m³</td><td>0.00049</td><td>0.0015</td><td>0.0020</td><td>24.5%</td></tr> <tr><td>ダイオキシン類</td><td>pg-TEQ/m³</td><td>0.00081</td><td>0.016</td><td>0.0168</td><td>4.8%</td></tr> </tbody> </table> <p>＜短期濃度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気安定度不安定時 <p>煙突排ガスの最大着地濃度は、大気安定度 A、風速 0.7m/s のケースが最大となり、最大着地濃度出現距離は煙突位置から 90m と予測する。</p> <p>＜大気安定度不安定時の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="961 1577 1665 1856"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>寄与濃度 (A)</th> <th>バックグラウンド濃度 (B)</th> <th>予測濃度 (A+B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>二酸化硫黄</td><td>ppm</td><td>0.0015</td><td>0.0120</td><td>0.0135</td></tr> <tr><td>窒素酸化物</td><td>ppm</td><td>0.0025</td><td>0.0620</td><td>0.0645</td></tr> <tr><td>二酸化窒素</td><td>ppm</td><td>—</td><td>—</td><td>0.0345</td></tr> <tr><td>浮遊粒子状物質</td><td>mg/m³</td><td>0.0005</td><td>0.0760</td><td>0.0765</td></tr> <tr><td>塩化水素</td><td>ppm</td><td>0.0025</td><td>0.0016</td><td>0.0041</td></tr> </tbody> </table>	項目	単位	着地濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	年平均予測結果 (A+B)	寄与率 (A/(A+B))	二酸化硫黄	ppm	0.00049	0.003	0.0035	14.0%	窒素酸化物	ppm	0.00081	0.011	0.0118	6.9%	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.00016	0.023	0.0232	0.7%	水銀	μgHg/m ³	0.00049	0.0015	0.0020	24.5%	ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.00081	0.016	0.0168	4.8%	項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)	二酸化硫黄	ppm	0.0015	0.0120	0.0135	窒素酸化物	ppm	0.0025	0.0620	0.0645	二酸化窒素	ppm	—	—	0.0345	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0005	0.0760	0.0765	塩化水素	ppm	0.0025	0.0016	0.0041	<p>■事業計画実施することとしている環境保全措置</p> <p>・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、監視制御システムのデータを用いた排ガス濃度の連続監視及び定期的な測定結果の確認を行う。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う大気質の影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲で回避または低減が期待できるものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、水銀及びダイオキシン類の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜施設の稼働に伴う大気質の評価結果（長期平均濃度）＞</p> <table border="1" data-bbox="2044 972 2585 1415"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>年平均値</th> <th>評価対象値</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>ppm</td> <td>0.0035</td> <td>0.007</td> <td>日平均値の 2% 除外値が 0.04ppm 以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>ppm</td> <td>0.0094</td> <td>0.020</td> <td>日平均値の年間 98% 値が 0.04～0.06ppm 以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>mg/m³</td> <td>0.0232</td> <td>0.056</td> <td>日平均値の 2% 除外値が 0.10mg/m³ 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀</td> <td>μgHg/m³</td> <td>0.0020</td> <td>0.0020</td> <td>0.04 μg/m³ 以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>pg-TEQ/m³</td> <td>0.0168</td> <td>0.0168</td> <td>0.6pg-TEQ/m³ 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 二酸化硫黄：環境保全目標は「大気の汚染に係る環境基準について」に適用される基準 2. 二酸化窒素：環境保全目標は「二酸化窒素に係る環境基準について」による基準 3. 浮遊粒子状物質：環境保全目標は「大気の汚染に係る環境基準について」に適用される基準 4. 水銀：環境保全目標は「環境中の有害大気汚染物質による健康リスク低減を図るための指針となる数値」に適用される基準 5. ダイオキシン類：環境保全目標は「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準について」に適用される基準</p>	項目	単位	年平均値	評価対象値	環境保全目標	二酸化硫黄	ppm	0.0035	0.007	日平均値の 2% 除外値が 0.04ppm 以下	二酸化窒素	ppm	0.0094	0.020	日平均値の年間 98% 値が 0.04～0.06ppm 以下	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0232	0.056	日平均値の 2% 除外値が 0.10mg/m ³ 以下	水銀	μgHg/m ³	0.0020	0.0020	0.04 μg/m ³ 以下	ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.0168	0.0168	0.6pg-TEQ/m ³ 以下	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、実施設計において排出ガス濃度が変化する等、排出源条件に不確実性が含まれることから、施設の稼働に伴う大気質への影響に係る調査を実施する。</p>
高度	風速	風向																																																																																																																																																																																															
	平均風速	最多風向	最多出現率																																																																																																																																																																																														
m	m/s	16 方位	%																																																																																																																																																																																														
50	1.9	北北東	12.5																																																																																																																																																																																														
100	2.9	北東	13.8																																																																																																																																																																																														
150	3.8	北東	11.6																																																																																																																																																																																														
200	4.4	東北東	12.1																																																																																																																																																																																														
300	4.7	東	15.2																																																																																																																																																																																														
500	5.1	西	12.5																																																																																																																																																																																														
1,000	7.0	西南西	13.8																																																																																																																																																																																														
1,500	8.4	北西	14.7																																																																																																																																																																																														
調査地点	年平均値	1 時間値の最大値	日平均値の最高値																																																																																																																																																																																														
St. 1	0.008	0.055	0.024																																																																																																																																																																																														
St. 2	0.008	0.058	0.026																																																																																																																																																																																														
St. 3	0.008	0.050	0.030																																																																																																																																																																																														
St. 4	0.008	0.062	0.026																																																																																																																																																																																														
St. 5	0.007	0.050	0.022																																																																																																																																																																																														
調査地点	年平均値	1 時間値の最大値	日平均値の最高値																																																																																																																																																																																														
St. 1	0.001	0.018	0.004																																																																																																																																																																																														
St. 2	0.001	0.041	0.008																																																																																																																																																																																														
St. 3	0.002	0.024	0.009																																																																																																																																																																																														
St. 4	0.001	0.020	0.006																																																																																																																																																																																														
St. 5	0.001	0.019	0.006																																																																																																																																																																																														
項目	単位	着地濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	年平均予測結果 (A+B)	寄与率 (A/(A+B))																																																																																																																																																																																												
二酸化硫黄	ppm	0.00049	0.003	0.0035	14.0%																																																																																																																																																																																												
窒素酸化物	ppm	0.00081	0.011	0.0118	6.9%																																																																																																																																																																																												
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.00016	0.023	0.0232	0.7%																																																																																																																																																																																												
水銀	μgHg/m ³	0.00049	0.0015	0.0020	24.5%																																																																																																																																																																																												
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.00081	0.016	0.0168	4.8%																																																																																																																																																																																												
項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)																																																																																																																																																																																													
二酸化硫黄	ppm	0.0015	0.0120	0.0135																																																																																																																																																																																													
窒素酸化物	ppm	0.0025	0.0620	0.0645																																																																																																																																																																																													
二酸化窒素	ppm	—	—	0.0345																																																																																																																																																																																													
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0005	0.0760	0.0765																																																																																																																																																																																													
塩化水素	ppm	0.0025	0.0016	0.0041																																																																																																																																																																																													
項目	単位	年平均値	評価対象値	環境保全目標																																																																																																																																																																																													
二酸化硫黄	ppm	0.0035	0.007	日平均値の 2% 除外値が 0.04ppm 以下																																																																																																																																																																																													
二酸化窒素	ppm	0.0094	0.020	日平均値の年間 98% 値が 0.04～0.06ppm 以下																																																																																																																																																																																													
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0232	0.056	日平均値の 2% 除外値が 0.10mg/m ³ 以下																																																																																																																																																																																													
水銀	μgHg/m ³	0.0020	0.0020	0.04 μg/m ³ 以下																																																																																																																																																																																													
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.0168	0.0168	0.6pg-TEQ/m ³ 以下																																																																																																																																																																																													

表 8-1.3(2) 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																														
大気質（硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀、その他有害物質）	存在・供用（施設の稼働）	<p>二酸化窒素 単位：ppm</p> <table border="1" data-bbox="329 579 884 842"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年平均値</th> <th>1時間値の最大値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St.1</td><td>0.007</td><td>0.037</td><td>0.020</td></tr> <tr><td>St.2</td><td>0.006</td><td>0.028</td><td>0.018</td></tr> <tr><td>St.3</td><td>0.007</td><td>0.034</td><td>0.022</td></tr> <tr><td>St.4</td><td>0.007</td><td>0.042</td><td>0.020</td></tr> <tr><td>St.5</td><td>0.005</td><td>0.034</td><td>0.017</td></tr> </tbody> </table> <p>浮遊粒子状物質 単位：mg/m³</p> <table border="1" data-bbox="329 915 884 1178"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年平均値</th> <th>1時間値の最大値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St.1</td><td>0.015</td><td>0.045</td><td>0.032</td></tr> <tr><td>St.2</td><td>0.017</td><td>0.071</td><td>0.031</td></tr> <tr><td>St.3</td><td>0.016</td><td>0.045</td><td>0.033</td></tr> <tr><td>St.4</td><td>0.016</td><td>0.076</td><td>0.032</td></tr> <tr><td>St.5</td><td>0.019</td><td>0.055</td><td>0.035</td></tr> </tbody> </table> <p>塩化水素 単位：ppm</p> <table border="1" data-bbox="329 1251 884 1478"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>期間平均値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St.1</td><td>0.0004</td><td>0.0016</td></tr> <tr><td>St.2</td><td>0.0003</td><td>0.0008</td></tr> <tr><td>St.3</td><td>0.0002</td><td>0.0005</td></tr> <tr><td>St.4</td><td>0.0003</td><td>0.0005</td></tr> <tr><td>St.5</td><td>0.0002</td><td>0.0004</td></tr> </tbody> </table>	調査地点	年平均値	1時間値の最大値	日平均値の最高値	St.1	0.007	0.037	0.020	St.2	0.006	0.028	0.018	St.3	0.007	0.034	0.022	St.4	0.007	0.042	0.020	St.5	0.005	0.034	0.017	調査地点	年平均値	1時間値の最大値	日平均値の最高値	St.1	0.015	0.045	0.032	St.2	0.017	0.071	0.031	St.3	0.016	0.045	0.033	St.4	0.016	0.076	0.032	St.5	0.019	0.055	0.035	調査地点	期間平均値	日平均値の最高値	St.1	0.0004	0.0016	St.2	0.0003	0.0008	St.3	0.0002	0.0005	St.4	0.0003	0.0005	St.5	0.0002	0.0004	<p>■予測結果</p> <p>・上層逆転層発生時 煙突排ガスの最大着地濃度は、大気安定度 D、風速 0.8m/s のケースが最大となり、最大着地濃度出現距離は煙突位置から 480m と予測する。</p> <p style="text-align: center;">＜上層逆転層発生時の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="958 751 1659 1031"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>寄与濃度 (A)</th> <th>バックグラウンド濃度 (B)</th> <th>予測濃度 (A+B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>二酸化硫黄</td><td>ppm</td><td>0.0079</td><td>0.0120</td><td>0.0199</td></tr> <tr><td>窒素酸化物</td><td>ppm</td><td>0.0131</td><td>0.0620</td><td>0.0751</td></tr> <tr><td>二酸化窒素</td><td>ppm</td><td>—</td><td>—</td><td>0.0387</td></tr> <tr><td>浮遊粒子状物質</td><td>mg/m³</td><td>0.0026</td><td>0.0760</td><td>0.0786</td></tr> <tr><td>塩化水素</td><td>ppm</td><td>0.0131</td><td>0.0016</td><td>0.0147</td></tr> </tbody> </table> <p>・接地逆転層崩壊時 煙突排ガスの最大着地濃度は、大気安定度 D、風速 0.9m/s のケースが最大となり、最大着地濃度出現距離は煙突位置から 432m と予測する。</p> <p style="text-align: center;">＜接地逆転層崩壊時の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="958 1283 1659 1562"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>寄与濃度 (A)</th> <th>バックグラウンド濃度 (B)</th> <th>予測濃度 (A+B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>二酸化硫黄</td><td>ppm</td><td>0.0055</td><td>0.0120</td><td>0.0175</td></tr> <tr><td>窒素酸化物</td><td>ppm</td><td>0.0092</td><td>0.0620</td><td>0.0712</td></tr> <tr><td>二酸化窒素</td><td>ppm</td><td>—</td><td>—</td><td>0.0372</td></tr> <tr><td>浮遊粒子状物質</td><td>mg/m³</td><td>0.0018</td><td>0.0760</td><td>0.0778</td></tr> <tr><td>塩化水素</td><td>ppm</td><td>0.0092</td><td>0.0016</td><td>0.0108</td></tr> </tbody> </table>	項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)	二酸化硫黄	ppm	0.0079	0.0120	0.0199	窒素酸化物	ppm	0.0131	0.0620	0.0751	二酸化窒素	ppm	—	—	0.0387	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0026	0.0760	0.0786	塩化水素	ppm	0.0131	0.0016	0.0147	項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)	二酸化硫黄	ppm	0.0055	0.0120	0.0175	窒素酸化物	ppm	0.0092	0.0620	0.0712	二酸化窒素	ppm	—	—	0.0372	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0018	0.0760	0.0778	塩化水素	ppm	0.0092	0.0016	0.0108		<p>＜施設の稼働に伴う大気質の評価結果(短期濃度)＞</p> <table border="1" data-bbox="2041 579 2585 827"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>気象条件</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>大気安定度不安定時</td> <td>0.0135</td> <td rowspan="5">0.1ppm 以下</td> </tr> <tr><td>上層逆転層発生時</td><td>0.0199</td></tr> <tr><td>接地逆転層崩壊時</td><td>0.0175</td></tr> <tr><td>ダウンウォッシュ時</td><td>0.0124</td></tr> <tr><td>ダウンドラフト時</td><td>0.0225</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「大気の汚染に係る環境基準について」に適用される基準</p> <p>＜施設の稼働に伴う大気質の評価結果(短期濃度)＞</p> <table border="1" data-bbox="2041 957 2585 1205"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>気象条件</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">二酸化窒素 (ppm)</td> <td>大気安定度不安定時</td> <td>0.0345</td> <td rowspan="5">0.1～0.2ppm 以下</td> </tr> <tr><td>上層逆転層発生時</td><td>0.0387</td></tr> <tr><td>接地逆転層崩壊時</td><td>0.0372</td></tr> <tr><td>ダウンウォッシュ時</td><td>0.0338</td></tr> <tr><td>ダウンドラフト時</td><td>0.0405</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「二酸化窒素の人の健康影響に係る判定条件等について」に適用される基準</p> <p>＜施設の稼働に伴う大気質の評価結果(短期濃度)＞</p> <table border="1" data-bbox="2041 1335 2585 1583"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>気象条件</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>大気安定度不安定時</td> <td>0.0765</td> <td rowspan="5">0.2mg/m³ 以下</td> </tr> <tr><td>上層逆転層発生時</td><td>0.0786</td></tr> <tr><td>接地逆転層崩壊時</td><td>0.0778</td></tr> <tr><td>ダウンウォッシュ時</td><td>0.0761</td></tr> <tr><td>ダウンドラフト時</td><td>0.0795</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「大気の汚染に係る環境基準について」に適用される基準</p>	項目	気象条件	予測結果	環境保全目標	二酸化硫黄 (ppm)	大気安定度不安定時	0.0135	0.1ppm 以下	上層逆転層発生時	0.0199	接地逆転層崩壊時	0.0175	ダウンウォッシュ時	0.0124	ダウンドラフト時	0.0225	項目	気象条件	予測結果	環境保全目標	二酸化窒素 (ppm)	大気安定度不安定時	0.0345	0.1～0.2ppm 以下	上層逆転層発生時	0.0387	接地逆転層崩壊時	0.0372	ダウンウォッシュ時	0.0338	ダウンドラフト時	0.0405	項目	気象条件	予測結果	環境保全目標	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	大気安定度不安定時	0.0765	0.2mg/m ³ 以下	上層逆転層発生時	0.0786	接地逆転層崩壊時	0.0778	ダウンウォッシュ時	0.0761	ダウンドラフト時	0.0795	
調査地点	年平均値	1時間値の最大値	日平均値の最高値																																																																																																																																																																																	
St.1	0.007	0.037	0.020																																																																																																																																																																																	
St.2	0.006	0.028	0.018																																																																																																																																																																																	
St.3	0.007	0.034	0.022																																																																																																																																																																																	
St.4	0.007	0.042	0.020																																																																																																																																																																																	
St.5	0.005	0.034	0.017																																																																																																																																																																																	
調査地点	年平均値	1時間値の最大値	日平均値の最高値																																																																																																																																																																																	
St.1	0.015	0.045	0.032																																																																																																																																																																																	
St.2	0.017	0.071	0.031																																																																																																																																																																																	
St.3	0.016	0.045	0.033																																																																																																																																																																																	
St.4	0.016	0.076	0.032																																																																																																																																																																																	
St.5	0.019	0.055	0.035																																																																																																																																																																																	
調査地点	期間平均値	日平均値の最高値																																																																																																																																																																																		
St.1	0.0004	0.0016																																																																																																																																																																																		
St.2	0.0003	0.0008																																																																																																																																																																																		
St.3	0.0002	0.0005																																																																																																																																																																																		
St.4	0.0003	0.0005																																																																																																																																																																																		
St.5	0.0002	0.0004																																																																																																																																																																																		
項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)																																																																																																																																																																																
二酸化硫黄	ppm	0.0079	0.0120	0.0199																																																																																																																																																																																
窒素酸化物	ppm	0.0131	0.0620	0.0751																																																																																																																																																																																
二酸化窒素	ppm	—	—	0.0387																																																																																																																																																																																
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0026	0.0760	0.0786																																																																																																																																																																																
塩化水素	ppm	0.0131	0.0016	0.0147																																																																																																																																																																																
項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)																																																																																																																																																																																
二酸化硫黄	ppm	0.0055	0.0120	0.0175																																																																																																																																																																																
窒素酸化物	ppm	0.0092	0.0620	0.0712																																																																																																																																																																																
二酸化窒素	ppm	—	—	0.0372																																																																																																																																																																																
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0018	0.0760	0.0778																																																																																																																																																																																
塩化水素	ppm	0.0092	0.0016	0.0108																																																																																																																																																																																
項目	気象条件	予測結果	環境保全目標																																																																																																																																																																																	
二酸化硫黄 (ppm)	大気安定度不安定時	0.0135	0.1ppm 以下																																																																																																																																																																																	
	上層逆転層発生時	0.0199																																																																																																																																																																																		
	接地逆転層崩壊時	0.0175																																																																																																																																																																																		
	ダウンウォッシュ時	0.0124																																																																																																																																																																																		
	ダウンドラフト時	0.0225																																																																																																																																																																																		
項目	気象条件	予測結果	環境保全目標																																																																																																																																																																																	
二酸化窒素 (ppm)	大気安定度不安定時	0.0345	0.1～0.2ppm 以下																																																																																																																																																																																	
	上層逆転層発生時	0.0387																																																																																																																																																																																		
	接地逆転層崩壊時	0.0372																																																																																																																																																																																		
	ダウンウォッシュ時	0.0338																																																																																																																																																																																		
	ダウンドラフト時	0.0405																																																																																																																																																																																		
項目	気象条件	予測結果	環境保全目標																																																																																																																																																																																	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	大気安定度不安定時	0.0765	0.2mg/m ³ 以下																																																																																																																																																																																	
	上層逆転層発生時	0.0786																																																																																																																																																																																		
	接地逆転層崩壊時	0.0778																																																																																																																																																																																		
	ダウンウォッシュ時	0.0761																																																																																																																																																																																		
	ダウンドラフト時	0.0795																																																																																																																																																																																		

表 8-1.3(3) 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																										
大気質（硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀、その他有害物質）	存在・供用（施設の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>ダイオキシン類 単位：pg-TEQ/m³</p> <table border="1" data-bbox="329 541 884 806"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>期間平均値 (毒性等量)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St. 1</td><td>0.011</td></tr> <tr><td>St. 2</td><td>0.0077</td></tr> <tr><td>St. 3</td><td>0.0087</td></tr> <tr><td>St. 4</td><td>0.0080</td></tr> <tr><td>St. 5</td><td>0.0089</td></tr> </tbody> </table> <p>水銀 単位：ng/m³</p> <table border="1" data-bbox="329 877 884 1108"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>期間平均値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>St. 1</td><td>1.1</td><td>2.1</td></tr> <tr><td>St. 2</td><td>1.4</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>St. 3</td><td>1.6</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>St. 4</td><td>1.3</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>St. 5</td><td>1.5</td><td>2.0</td></tr> </tbody> </table>	調査地点	期間平均値 (毒性等量)	St. 1	0.011	St. 2	0.0077	St. 3	0.0087	St. 4	0.0080	St. 5	0.0089	調査地点	期間平均値	日平均値の最高値	St. 1	1.1	2.1	St. 2	1.4	2.2	St. 3	1.6	2.2	St. 4	1.3	2.0	St. 5	1.5	2.0	<p>■予測結果</p> <p>・ダウンウォッシュ時 煙突排ガスの最大着地濃度は、大気安定度 C、風速 16.7m/s のケースが最大となり、最大着地濃度出現距離は煙突位置から 660m と予測する。</p> <p style="text-align: center;">＜ダウンウォッシュ時の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="961 684 1668 966"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>寄与濃度 (A)</th> <th>バックグラウンド濃度 (B)</th> <th>予測濃度 (A+B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>二酸化硫黄</td><td>ppm</td><td>0.0004</td><td>0.0120</td><td>0.0124</td></tr> <tr><td>窒素酸化物</td><td>ppm</td><td>0.0007</td><td>0.0620</td><td>0.0627</td></tr> <tr><td>二酸化窒素</td><td>ppm</td><td>—</td><td>—</td><td>0.0338</td></tr> <tr><td>浮遊粒子状物質</td><td>mg/m³</td><td>0.0001</td><td>0.0760</td><td>0.0761</td></tr> <tr><td>塩化水素</td><td>ppm</td><td>0.0007</td><td>0.0016</td><td>0.0023</td></tr> </tbody> </table> <p>・ダウンドラフト時 煙突排ガスの最大着地濃度は、煙突排ガスの最大着地濃度は、大気安定度 A、風速 0.7m/s のケースが最大となり、最大着地濃度出現距離は煙突位置から 240m と予測する。</p> <p style="text-align: center;">＜ダウンドラフト時の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="961 1262 1668 1543"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>寄与濃度 (A)</th> <th>バックグラウンド濃度 (B)</th> <th>予測濃度 (A+B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>二酸化硫黄</td><td>ppm</td><td>0.0105</td><td>0.0120</td><td>0.0225</td></tr> <tr><td>窒素酸化物</td><td>ppm</td><td>0.0176</td><td>0.0620</td><td>0.0796</td></tr> <tr><td>二酸化窒素</td><td>ppm</td><td>—</td><td>—</td><td>0.0405</td></tr> <tr><td>浮遊粒子状物質</td><td>mg/m³</td><td>0.0035</td><td>0.0760</td><td>0.0795</td></tr> <tr><td>塩化水素</td><td>ppm</td><td>0.0176</td><td>0.0016</td><td>0.0192</td></tr> </tbody> </table>	項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)	二酸化硫黄	ppm	0.0004	0.0120	0.0124	窒素酸化物	ppm	0.0007	0.0620	0.0627	二酸化窒素	ppm	—	—	0.0338	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0001	0.0760	0.0761	塩化水素	ppm	0.0007	0.0016	0.0023	項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)	二酸化硫黄	ppm	0.0105	0.0120	0.0225	窒素酸化物	ppm	0.0176	0.0620	0.0796	二酸化窒素	ppm	—	—	0.0405	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0035	0.0760	0.0795	塩化水素	ppm	0.0176	0.0016	0.0192		<p style="text-align: center;">＜施設の稼働に伴う大気質の評価結果(短期濃度)＞</p> <table border="1" data-bbox="2041 506 2591 753"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>気象条件</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">塩化水素 (ppm)</td> <td>大気安定度不安定時</td> <td>0.0041</td> <td rowspan="5">0.02ppm 以下</td> </tr> <tr> <td>上層逆転層発生時</td> <td>0.0147</td> </tr> <tr> <td>接地逆転層崩壊時</td> <td>0.0108</td> </tr> <tr> <td>ダウンウォッシュ時</td> <td>0.0023</td> </tr> <tr> <td>ダウンドラフト時</td> <td>0.0192</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「大気汚染防止法に基づく窒素酸化物の排出基準の改定等について」に適用される基準</p>	項目	気象条件	予測結果	環境保全 目標	塩化水素 (ppm)	大気安定度不安定時	0.0041	0.02ppm 以下	上層逆転層発生時	0.0147	接地逆転層崩壊時	0.0108	ダウンウォッシュ時	0.0023	ダウンドラフト時	0.0192	
調査地点	期間平均値 (毒性等量)																																																																																																															
St. 1	0.011																																																																																																															
St. 2	0.0077																																																																																																															
St. 3	0.0087																																																																																																															
St. 4	0.0080																																																																																																															
St. 5	0.0089																																																																																																															
調査地点	期間平均値	日平均値の最高値																																																																																																														
St. 1	1.1	2.1																																																																																																														
St. 2	1.4	2.2																																																																																																														
St. 3	1.6	2.2																																																																																																														
St. 4	1.3	2.0																																																																																																														
St. 5	1.5	2.0																																																																																																														
項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)																																																																																																												
二酸化硫黄	ppm	0.0004	0.0120	0.0124																																																																																																												
窒素酸化物	ppm	0.0007	0.0620	0.0627																																																																																																												
二酸化窒素	ppm	—	—	0.0338																																																																																																												
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0001	0.0760	0.0761																																																																																																												
塩化水素	ppm	0.0007	0.0016	0.0023																																																																																																												
項目	単位	寄与濃度 (A)	バックグラウンド濃度 (B)	予測濃度 (A+B)																																																																																																												
二酸化硫黄	ppm	0.0105	0.0120	0.0225																																																																																																												
窒素酸化物	ppm	0.0176	0.0620	0.0796																																																																																																												
二酸化窒素	ppm	—	—	0.0405																																																																																																												
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0035	0.0760	0.0795																																																																																																												
塩化水素	ppm	0.0176	0.0016	0.0192																																																																																																												
項目	気象条件	予測結果	環境保全 目標																																																																																																													
塩化水素 (ppm)	大気安定度不安定時	0.0041	0.02ppm 以下																																																																																																													
	上層逆転層発生時	0.0147																																																																																																														
	接地逆転層崩壊時	0.0108																																																																																																														
	ダウンウォッシュ時	0.0023																																																																																																														
	ダウンドラフト時	0.0192																																																																																																														

表 8-1.4 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																												
大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	存在・供用（廃棄物運搬車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <p>沿道環境（St.6～St.9）における四季の大気質の調査結果は以下に示すとおりである。</p> <p>・大気質</p> <p>＜一般環境大気質調査結果（四季平均）＞</p> <table border="1"> <caption>二酸化窒素 単位：ppm</caption> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.007</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.008</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.007</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.005</td> </tr> </tbody> </table> <p>浮遊粒子状物質 単位：mg/m³</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>年平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.019</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	年平均値	St.6	0.007	St.7	0.008	St.8	0.007	St.9	0.005	調査地点	年平均値	St.6	0.017	St.7	0.017	St.8	0.015	St.9	0.019	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事用車両等の走行に伴う大気質の環境影響（工事の実施）と同様に、廃棄物運搬車両等の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の環境影響が最大となる条件として行った。</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴う大気質の予測結果は以下に示すとおりである。</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴う寄与濃度は、St.6～St.9において、二酸化窒素が0.000003～0.000121ppmで、寄与率は0.1～1.7%、浮遊粒子状物質が0.000003～0.000079mg/m³で、寄与率は0.0～0.1%であった。</p> <p>＜廃棄物運搬車両等の走行に伴う二酸化窒素の予測結果（年平均値）＞</p> <table border="1"> <caption>単位：ppm</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>廃棄物運搬車両寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.000004</td> <td>0.007</td> <td>0.007004</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.000037</td> <td>0.008</td> <td>0.008037</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.000121</td> <td>0.007</td> <td>0.007121</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.000003</td> <td>0.005</td> <td>0.005003</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜廃棄物運搬車両等の走行に伴う浮遊粒子状物質の予測結果（年平均値）＞</p> <table border="1"> <caption>単位：mg/m³</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>廃棄物運搬車両寄与濃度①</th> <th>バックグラウンド濃度②</th> <th>予測結果①+②</th> <th>寄与率%①/(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.0000005</td> <td>0.017</td> <td>0.0170005</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.0000035</td> <td>0.017</td> <td>0.0170035</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.0000079</td> <td>0.015</td> <td>0.0150079</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.0000003</td> <td>0.019</td> <td>0.0190003</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	廃棄物運搬車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	St.6	0.000004	0.007	0.007004	0.1	St.7	0.000037	0.008	0.008037	0.5	St.8	0.000121	0.007	0.007121	1.7	St.9	0.000003	0.005	0.005003	0.1	予測地点	廃棄物運搬車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)	St.6	0.0000005	0.017	0.0170005	0.0	St.7	0.0000035	0.017	0.0170035	0.0	St.8	0.0000079	0.015	0.0150079	0.1	St.9	0.0000003	0.019	0.0190003	0.0	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 車両の維持管理：車両の維持管理を徹底し、常に良好な状態で使用することで環境への負荷を低減する。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 運転手の教育・指導：走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、廃棄物運搬車両等の走行に伴う大気質の影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲で回避または低減が期待できるものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜廃棄物運搬車両等の走行に伴う二酸化窒素の評価結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">予測結果（ppm）</th> <th rowspan="2">環境保全目標</th> </tr> <tr> <th>年平均値</th> <th>日平均値の年間98%値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.007004</td> <td>0.018</td> <td rowspan="4">日平均値の年間98%値が0.04～0.06ppm以下</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.008037</td> <td>0.020</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.007121</td> <td>0.018</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.005003</td> <td>0.015</td> </tr> </tbody> </table> <p>注）環境保全目標は「二酸化窒素に係る環境基準について」に適用される基準</p> <p>＜廃棄物運搬車両等の走行に伴う浮遊粒子状物質の評価結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th colspan="2">予測結果（mg/m³）</th> <th rowspan="2">環境保全目標</th> </tr> <tr> <th>年平均値</th> <th>日平均値の2%除外値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.6</td> <td>0.0170005</td> <td>0.043</td> <td rowspan="4">日平均値の2%値除外値が0.10mg/m³以下</td> </tr> <tr> <td>St.7</td> <td>0.0170035</td> <td>0.043</td> </tr> <tr> <td>St.8</td> <td>0.0150079</td> <td>0.039</td> </tr> <tr> <td>St.9</td> <td>0.0190003</td> <td>0.047</td> </tr> </tbody> </table> <p>注）環境保全目標は「大気の汚染に係る環境基準について」に適用される基準</p>	予測地点	予測結果（ppm）		環境保全目標	年平均値	日平均値の年間98%値	St.6	0.007004	0.018	日平均値の年間98%値が0.04～0.06ppm以下	St.7	0.008037	0.020	St.8	0.007121	0.018	St.9	0.005003	0.015	予測地点	予測結果（mg/m ³ ）		環境保全目標	年平均値	日平均値の2%除外値	St.6	0.0170005	0.043	日平均値の2%値除外値が0.10mg/m ³ 以下	St.7	0.0170035	0.043	St.8	0.0150079	0.039	St.9	0.0190003	0.047	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
調査地点	年平均値																																																																																																																	
St.6	0.007																																																																																																																	
St.7	0.008																																																																																																																	
St.8	0.007																																																																																																																	
St.9	0.005																																																																																																																	
調査地点	年平均値																																																																																																																	
St.6	0.017																																																																																																																	
St.7	0.017																																																																																																																	
St.8	0.015																																																																																																																	
St.9	0.019																																																																																																																	
予測地点	廃棄物運搬車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																																														
St.6	0.000004	0.007	0.007004	0.1																																																																																																														
St.7	0.000037	0.008	0.008037	0.5																																																																																																														
St.8	0.000121	0.007	0.007121	1.7																																																																																																														
St.9	0.000003	0.005	0.005003	0.1																																																																																																														
予測地点	廃棄物運搬車両寄与濃度①	バックグラウンド濃度②	予測結果①+②	寄与率%①/(①+②)																																																																																																														
St.6	0.0000005	0.017	0.0170005	0.0																																																																																																														
St.7	0.0000035	0.017	0.0170035	0.0																																																																																																														
St.8	0.0000079	0.015	0.0150079	0.1																																																																																																														
St.9	0.0000003	0.019	0.0190003	0.0																																																																																																														
予測地点	予測結果（ppm）		環境保全目標																																																																																																															
	年平均値	日平均値の年間98%値																																																																																																																
St.6	0.007004	0.018	日平均値の年間98%値が0.04～0.06ppm以下																																																																																																															
St.7	0.008037	0.020																																																																																																																
St.8	0.007121	0.018																																																																																																																
St.9	0.005003	0.015																																																																																																																
予測地点	予測結果（mg/m ³ ）		環境保全目標																																																																																																															
	年平均値	日平均値の2%除外値																																																																																																																
St.6	0.0170005	0.043	日平均値の2%値除外値が0.10mg/m ³ 以下																																																																																																															
St.7	0.0170035	0.043																																																																																																																
St.8	0.0150079	0.039																																																																																																																
St.9	0.0190003	0.047																																																																																																																

表 8-1.5 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																														
騒音	工事の実施（建設機械の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>・環境騒音（等価騒音レベル L_{Aeq}） 敷地境界北側 St. 1 では昼間が 38～47dB、夜間が 33～37dB となり、敷地境界南側 St. 2 では昼間が 44～51dB、夜間が 40dB となった。いずれも環境基準値(C 類型)以下であった。</p> <p>＜環境騒音調査結果（等価騒音レベル L_{Aeq}）＞ 単位: dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> <th colspan="2">環境基準 (C 類型)</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 1</td> <td>47</td> <td>37</td> <td>38</td> <td>33</td> <td rowspan="2">60</td> <td rowspan="2">50</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>51</td> <td>40</td> <td>44</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 時間区分は、昼間: 6 時～22 時、夜間: 22 時～翌 6 時を示す。</p> <p>・環境騒音（時間率騒音レベル L_{A5}） 敷地境界 St. 1 及び St. 2 の時間率騒音レベルは、いずれも全ての時間区分で規制基準値（第 3 種区域）以下であった。</p> <p>＜環境騒音調査結果（時間率騒音レベル L_{A5}）＞ 単位: dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="3">平日</th> <th colspan="3">休日</th> <th colspan="3">規制基準 (第 3 種区域)</th> </tr> <tr> <th>朝</th> <th>昼間</th> <th>夕</th> <th>朝</th> <th>昼間</th> <th>夕</th> <th>昼間</th> <th>朝・夕</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 1</td> <td>40</td> <td>51</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>43</td> <td>35</td> <td>36</td> <td rowspan="2">65</td> <td rowspan="2">60</td> <td rowspan="2">50</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>44</td> <td>56</td> <td>40</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>49</td> <td>44</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 時間区分は、朝: 5 時～7 時、昼間: 7 時～20 時、夕: 20 時～22 時、夜間: 22 時～翌 5 時を示す。</p> <p>・暗騒音 敷地境界 St. 1 及び St. 2 の暗騒音は、現地調査結果の時間率騒音レベル (L_{A5}) のうち、建設機械の稼働時間 (8 時～17 時) における 1 時間値の最大値を用いた。St. 3 の暗騒音は、St. 1 及び St. 2 の現地調査結果の昼間の等価騒音レベル (L_{Aeq}) のうち大きい方の値を用いた。</p> <p>＜暗騒音の 1 時間値の最大値（時間率騒音レベル）＞ 単位: dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>暗騒音レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 1</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	平日		休日		環境基準 (C 類型)		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	St. 1	47	37	38	33	60	50	St. 2	51	40	44	40	調査地点	平日			休日			規制基準 (第 3 種区域)			朝	昼間	夕	朝	昼間	夕	昼間	朝・夕	夜間	St. 1	40	51	41	40	37	43	35	36	65	60	50	St. 2	44	56	40	42	44	49	44	41	予測地点	暗騒音レベル	St. 1	58	St. 2	62	St. 3	51	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事工程の中から、工事の種類や使用建設機械の種類及び台数を考慮し、周辺環境への影響が大きくなると想定される時期として 2 ケースに分けて予測した。</p> <p>建設機械の稼働に伴う騒音レベル (L_{A5}) の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>ケース 1 の予測の結果は、St. 1 が 68dB、St. 2 が 68dB、St. 3 が 59dB、予測対象敷地境界区間の最大地点が 71dB であった。ケース 2 の予測の結果は、St. 1 が 66dB、St. 2 が 67dB、St. 3 が 57dB、予測対象敷地境界区間の最大地点が 68dB であった、</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う建設作業騒音の予測結果＞ 単位: dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測ケース</th> <th>予測地点</th> <th>暗騒音レベル ①</th> <th>建設機械の稼働による寄与値 ②</th> <th>合成騒音レベル ①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1</td> <td>St. 1</td> <td>58</td> <td>67.8</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>62</td> <td>66.3</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>51</td> <td>58.7</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>62</td> <td>70.8</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2</td> <td>St. 1</td> <td>58</td> <td>65.8</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>62</td> <td>65.5</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>51</td> <td>55.8</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>62</td> <td>67.1</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. St. 3 の暗騒音レベルは L_{Aeq} (等価騒音レベル) を、その他は L_{A5} (時間率騒音レベル) を示す。 2. 時間区分は、昼間 (昼間: 6 時～22 時)</p>	予測ケース	予測地点	暗騒音レベル ①	建設機械の稼働による寄与値 ②	合成騒音レベル ①+②	1	St. 1	58	67.8	68	St. 2	62	66.3	68	St. 3	51	58.7	59	予測対象敷地境界区間の最大地点	62	70.8	71	2	St. 1	58	65.8	66	St. 2	62	65.5	67	St. 3	51	55.8	57	予測対象敷地境界区間の最大地点	62	67.1	68	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 低騒音型機械等の使用: 建設機械は、低騒音型のものを使用し、整備、点検を徹底する。 建設機械の稼働分散: 発生騒音が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討し、集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。 建設機械の稼働時間の配慮: 建設機械は日中の稼働を基本とし、原則、夜間の稼働は行わないものとする。 仮囲い等の設置: 対象事業実施区域の外周（特に住居等が分布する西側）に仮囲いまたは防音シートを設置する。 工事期間中の測定: 工事期間中の騒音を連続測定するとともに、測定値を表示するなど、周辺環境の保全に配慮する。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業方法の配慮: 建設機械の不要な空ぶかしの防止や、待機時のアイドリングストップを遵守するよう作業員への指導・徹底を行う。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、建設機械の稼働に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>建設機械の稼働に伴う騒音の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う騒音の評価結果（敷地境界）＞ 単位: dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測ケース</th> <th>予測地点</th> <th>予測結果 (L_{A5})</th> <th>環境保全目標 (L_{A5})</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1</td> <td>St. 1</td> <td>68</td> <td rowspan="6">85</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2</td> <td>St. 1</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」</p> <p>＜建設機械の稼働に伴う騒音の評価結果（直近民家）＞ 単位: dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測ケース</th> <th>予測地点</th> <th>予測結果 (L_{Aeq})</th> <th>環境保全目標 (L_{Aeq})</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>St. 3</td> <td>59</td> <td rowspan="2">60</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>St. 3</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「騒音に係る環境基準」のうち一般地域の C 地域で適用される基準</p>	予測ケース	予測地点	予測結果 (L_{A5})	環境保全目標 (L_{A5})	1	St. 1	68	85	St. 2	68	予測対象敷地境界区間の最大地点	71	2	St. 1	66	St. 2	67	予測対象敷地境界区間の最大地点	68	予測ケース	予測地点	予測結果 (L_{Aeq})	環境保全目標 (L_{Aeq})	1	St. 3	59	60	2	St. 3	57	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。ただし、建設機械の稼働条件には不確実性が含まれるため、建設機械の稼働に伴う騒音の影響に係る調査を実施する。</p>
調査地点	平日			休日		環境基準 (C 類型)																																																																																																																																														
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間																																																																																																																																														
St. 1	47	37	38	33	60	50																																																																																																																																														
St. 2	51	40	44	40																																																																																																																																																
調査地点	平日			休日			規制基準 (第 3 種区域)																																																																																																																																													
	朝	昼間	夕	朝	昼間	夕	昼間	朝・夕	夜間																																																																																																																																											
St. 1	40	51	41	40	37	43	35	36	65	60	50																																																																																																																																									
St. 2	44	56	40	42	44	49	44	41																																																																																																																																												
予測地点	暗騒音レベル																																																																																																																																																			
St. 1	58																																																																																																																																																			
St. 2	62																																																																																																																																																			
St. 3	51																																																																																																																																																			
予測ケース	予測地点	暗騒音レベル ①	建設機械の稼働による寄与値 ②	合成騒音レベル ①+②																																																																																																																																																
1	St. 1	58	67.8	68																																																																																																																																																
	St. 2	62	66.3	68																																																																																																																																																
	St. 3	51	58.7	59																																																																																																																																																
	予測対象敷地境界区間の最大地点	62	70.8	71																																																																																																																																																
2	St. 1	58	65.8	66																																																																																																																																																
	St. 2	62	65.5	67																																																																																																																																																
	St. 3	51	55.8	57																																																																																																																																																
	予測対象敷地境界区間の最大地点	62	67.1	68																																																																																																																																																
予測ケース	予測地点	予測結果 (L_{A5})	環境保全目標 (L_{A5})																																																																																																																																																	
1	St. 1	68	85																																																																																																																																																	
	St. 2	68																																																																																																																																																		
	予測対象敷地境界区間の最大地点	71																																																																																																																																																		
2	St. 1	66																																																																																																																																																		
	St. 2	67																																																																																																																																																		
	予測対象敷地境界区間の最大地点	68																																																																																																																																																		
予測ケース	予測地点	予測結果 (L_{Aeq})	環境保全目標 (L_{Aeq})																																																																																																																																																	
1	St. 3	59	60																																																																																																																																																	
2	St. 3	57																																																																																																																																																		

表 8-1.6 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																							
騒音	工事の実施（工事用車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <p>・道路交通騒音 県道六条院東里庄線の St. 3 では、昼間が 65～67dB、夜間が 56～59dB であった。St. 4 では、昼間が 62～65dB、夜間が 55～57dB であった。いずれも幹線交通を担う道路に近接する区域の環境基準値以下であった。</p> <p>町道新庄 613 号線の St. 5 では、昼間が 51～60dB、夜間が 44～48dB であった。St. 6 では、昼間が 52dB、夜間が 36dB であった。いずれも該当する C 地域のうち、車線を有する道路に面する地域の環境基準値以下であった。</p> <p><道路交通騒音調査結果（等価騒音レベル L_{Aeq}）> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> <th colspan="2">環境基準値</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>67</td> <td>59</td> <td>65</td> <td>56</td> <td rowspan="2">70</td> <td rowspan="2">65</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>65</td> <td>57</td> <td>62</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>60</td> <td>48</td> <td>51</td> <td>44</td> <td rowspan="2">65</td> <td rowspan="2">60</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>52</td> <td>36</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 時間区分は、昼間：6時～22時、夜間：22時～翌6時を示す。 2. 環境基準値は以下のとおりとした。 St. 3～4：騒音に係る環境基準の道路に面する地域のうち、幹線交通を担う道路に近接する空間の値 St. 5～6：C 地域のうち車線を有する道路に面する地域の値</p>	調査地点	平日		休日		環境基準値		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	St. 3	67	59	65	56	70	65	St. 4	65	57	62	55	St. 5	60	48	51	44	65	60	St. 6	52	36			<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事用車両等の走行による騒音に係る環境影響が最大となる時期とした。</p> <p>工事の実施における、工事用車両等の走行に伴う騒音レベルは以下に示すとおりである。</p> <p>St. 3～St. 6 の予測騒音レベルは、61～68dB であった。</p> <p><工事用車両等の走行に伴う道路交通騒音（L_{Aeq}）の予測結果> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間区分</th> <th colspan="3">予測結果</th> <th rowspan="2">現況騒音レベル ④</th> <th rowspan="2">予測騒音レベル ③+④</th> </tr> <tr> <th>現況交通による予測結果 ①</th> <th>将来交通による予測結果 ②</th> <th>増加量 ③ (②-①)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>昼間</td> <td>63.6</td> <td>65.0</td> <td>1.4</td> <td>67</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>昼間</td> <td>63.0</td> <td>64.4</td> <td>1.4</td> <td>65</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>昼間</td> <td>57.1</td> <td>59.8</td> <td>2.7</td> <td>60</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>昼間</td> <td>48.8</td> <td>57.4</td> <td>8.6</td> <td>52</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	時間区分	予測結果			現況騒音レベル ④	予測騒音レベル ③+④	現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)	St. 3	昼間	63.6	65.0	1.4	67	68	St. 4	昼間	63.0	64.4	1.4	65	66	St. 5	昼間	57.1	59.8	2.7	60	63	St. 6	昼間	48.8	57.4	8.6	52	61	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <p>・整備・点検の徹底：整備・点検を徹底し不要な騒音を発生させないように努める。 ・工事用車両の分散：工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。</p> <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <p>・エコドライブの実施：不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速など高負荷運転防止を徹底する。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、工事用車両等の走行に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>工事用車両等の走行に伴う騒音の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p><工事用車両等の走行に伴う道路交通騒音（L_{Aeq}）の評価結果> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時間区分</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測騒音レベル</th> <th>増加量</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>昼間</td> <td>67</td> <td>68</td> <td>1.4</td> <td rowspan="2">70^{注1}</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>昼間</td> <td>65</td> <td>66</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>昼間</td> <td>60</td> <td>63</td> <td>2.7</td> <td rowspan="2">65^{注2}</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>昼間</td> <td>52</td> <td>61</td> <td>8.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準のうち幹線交通を担う道路に近接する空間で適用される基準 2. 「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準のうち C 地域の車線を有する道路に面する地域の値</p>	予測地点	時間区分	現況騒音レベル	予測騒音レベル	増加量	環境保全目標	St. 3	昼間	67	68	1.4	70 ^{注1}	St. 4	昼間	65	66	1.4	St. 5	昼間	60	63	2.7	65 ^{注2}	St. 6	昼間	52	61	8.6	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、予測結果は環境保全目標に近接するレベルである。また、本事業の工事期間中に「一般国道 玉島・笠岡道路」が供用開始となる予定であるが、現況調査時点では当該道路は工事中であり、将来、予測地域周辺の自動車交通状況が大きく変化する可能性がある。</p> <p>以上のことから、工事用車両等の走行に伴う騒音の影響に係る調査を実施する。</p>
調査地点	平日			休日		環境基準値																																																																																																							
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間																																																																																																							
St. 3	67	59	65	56	70	65																																																																																																							
St. 4	65	57	62	55																																																																																																									
St. 5	60	48	51	44	65	60																																																																																																							
St. 6	52	36																																																																																																											
予測地点	時間区分	予測結果			現況騒音レベル ④	予測騒音レベル ③+④																																																																																																							
		現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)																																																																																																									
St. 3	昼間	63.6	65.0	1.4	67	68																																																																																																							
St. 4	昼間	63.0	64.4	1.4	65	66																																																																																																							
St. 5	昼間	57.1	59.8	2.7	60	63																																																																																																							
St. 6	昼間	48.8	57.4	8.6	52	61																																																																																																							
予測地点	時間区分	現況騒音レベル	予測騒音レベル	増加量	環境保全目標																																																																																																								
St. 3	昼間	67	68	1.4	70 ^{注1}																																																																																																								
St. 4	昼間	65	66	1.4																																																																																																									
St. 5	昼間	60	63	2.7	65 ^{注2}																																																																																																								
St. 6	昼間	52	61	8.6																																																																																																									

表 8-1.7 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																															
騒音	存在・供用（施設の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>・暗騒音</p> <p>敷地境界 St.1 及び St.2 の暗騒音は、現地調査結果の時間率騒音レベル (L_{A5}) を用いた。St.3 の暗騒音は、St.1 及び St.2 の現地調査結果の昼間及び夜間の等価騒音レベル (L_{Aeq}) のうち大きい方の値を用いた。</p> <p><暗騒音の1時間値の最大値（時間率騒音レベル (L_{A5}) (敷地境界) ></p> <table border="1"> <caption>単位：dB</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>暗騒音レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">St.1</td> <td>朝</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.2</td> <td>朝</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 時間区分は、朝：5時～7時、昼間：7時～20時、夕：20時～22時、夜間：22時～翌5時を示す。</p> <p><暗騒音の（時間率騒音レベル (L_{Aeq}) (直近民家) ></p> <table border="1"> <caption>単位：dB</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>暗騒音レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.3</td> <td>昼間</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 時間区分は、昼間：6時～22時、夜間：22時～翌6時を示す。 2. St.1 及び St.2 における現地調査結果の昼間及び夜間の等価騒音レベル (L_{Aeq}) のうち大きい方の値</p>	予測地点	区分	暗騒音レベル	St.1	朝	40	昼間	51	夕	41	夜間	40	St.2	朝	44	昼間	56	夕	40	夜間	42	予測地点	区分	暗騒音レベル	St.3	昼間	51	夜間	40	<p>■予測結果</p> <p>予測は、施設の稼働による騒音に係る環境影響が最大となる時期として、施設の稼働が通常となる時期とし、予測にあたっては、施設内に設置され、騒音の主な発生源になると見込まれる機器類を想定した。</p> <p>施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>合成騒音レベルで最も高かったのは、予測対象敷地境界区間の最大地点の昼間で 61dB であった。</p> <p>直近民家に位置する St.3 の合成騒音レベルは、昼間 51dB、夜間 40dB であり、現況からほとんど変化しない。</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果（敷地境界）></p> <table border="1"> <caption>単位：dB</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>暗騒音レベル ①</th> <th>施設の稼働による寄与値 ②</th> <th>合成騒音レベル ③</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">St.1</td> <td>朝</td> <td>40</td> <td>36.6</td> <td>42</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>51</td> <td>52.2</td> <td>55</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>41</td> <td>36.6</td> <td>42</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">St.2</td> <td>朝</td> <td>44</td> <td>36.8</td> <td>45</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>56</td> <td>52.2</td> <td>58</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>40</td> <td>36.8</td> <td>42</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">St.2</td> <td>朝</td> <td>44</td> <td>36.8</td> <td>43</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>42</td> <td>36.8</td> <td>43</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>42</td> <td>36.8</td> <td>43</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>朝</td> <td>44</td> <td>43.6</td> <td>47</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>56</td> <td>59.1</td> <td>61</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>41</td> <td>43.6</td> <td>46</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>42</td> <td>43.6</td> <td>46</td> <td>3.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 予測対象敷地境界区間の最大地点の暗騒音レベルは、St.1 及び St.2 の暗騒音レベルのうち、大きい方の値を用いた。 2. 暗騒音レベルは、現地調査結果の時間率騒音レベルの 90%レンジ上端値 (L_{A5}) であり、統計的な指標であることから、厳密に合成値を求めることはできないが、騒音レベルの合成計算方法を準用して算出した値を合成騒音レベル (L_{A5}) として示す。</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果（直近民家）></p> <table border="1"> <caption>単位：dB</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>暗騒音レベル ①</th> <th>施設の稼働による寄与値 ②</th> <th>合成騒音レベル ③</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.3</td> <td>昼間</td> <td>51</td> <td>33.2</td> <td>51</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>40</td> <td>17.8</td> <td>40</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 時間区分は、昼間：6時～22時、夜間：22時～翌6時を示す。</p>	予測地点	区分	暗騒音レベル ①	施設の稼働による寄与値 ②	合成騒音レベル ③	増加量	St.1	朝	40	36.6	42	1.6	昼間	51	52.2	55	3.6	夕	41	36.6	42	1.4	St.2	朝	44	36.8	45	0.8	昼間	56	52.2	58	1.5	夕	40	36.8	42	1.7	St.2	朝	44	36.8	43	1.1	昼間	42	36.8	43	1.1	夜間	42	36.8	43	1.1	予測対象敷地境界区間の最大地点	朝	44	43.6	47	2.8	昼間	56	59.1	61	4.8	夕	41	43.6	46	4.5	夜間	42	43.6	46	3.9	予測地点	区分	暗騒音レベル ①	施設の稼働による寄与値 ②	合成騒音レベル ③	増加量	St.3	昼間	51	33.2	51	0.1	夜間	40	17.8	40	0.0	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <p>・騒音発生機器の配慮：騒音発生源となる設備機器は極力建屋内の外壁に面していない部屋に設置することとし、設備は低騒音型を選定する。また、大きな騒音を発生する設備機器については、防音構造の室内に収納し、必要に応じて二重壁や内壁等に吸音材を貼り付ける等の騒音対策を講じる。</p> <p>・施設設備の配慮：空気取り込み口やガラリ等は、周辺への騒音影響を十分に考慮して配置する。また、必要に応じて二重壁構造とし、内部吸音材を貼り付ける等の騒音対策を講じる。</p> <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <p>・施設内の日常管理：外部への騒音の伝搬を抑制するため、ドアや窓の開放状態を避けるよう日常的な管理を行う。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じるにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う騒音の予測結果は、下表に示すとおりであり、予測結果は、全地点のすべての時間区分で環境保全目標を下回ることから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの評価結果（敷地境界）></p> <table border="1"> <caption>単位：dB</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">St.1</td> <td>朝</td> <td>42</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>55</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>42</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>42</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">St.2</td> <td>朝</td> <td>45</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>58</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>42</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>43</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>朝</td> <td>47</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>61</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>46</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>46</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「騒音規制法に基づく騒音の規制地域、規制基準等」に示される第3種区域に適用される基準</p> <p><施設の稼働に伴う騒音レベルの評価結果（直近民家）></p> <table border="1"> <caption>単位：dB</caption> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.3</td> <td>昼間</td> <td>51</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>40</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「騒音に係る環境基準」のうち一般地域のC地域で適用される基準</p>	予測地点	区分	予測結果	環境保全目標	St.1	朝	42	60	昼間	55	65	夕	42	60	夜間	42	50	St.2	朝	45	60	昼間	58	65	夕	42	60	夜間	43	50	予測対象敷地境界区間の最大地点	朝	47	60	昼間	61	65	夕	46	60	夜間	46	50	予測地点	区分	予測結果	環境保全目標	St.3	昼間	51	60	夜間	40	50	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、実施設計において主要な騒音発生機器の種類、配置及び稼働時間や、施設の構造条件等が変更になる等、騒音発生源条件に不確実性が含まれることが考えられるため、施設の稼働に伴う騒音の影響に係る調査を実施する。</p>
予測地点	区分	暗騒音レベル																																																																																																																																																																																			
St.1	朝	40																																																																																																																																																																																			
	昼間	51																																																																																																																																																																																			
	夕	41																																																																																																																																																																																			
	夜間	40																																																																																																																																																																																			
St.2	朝	44																																																																																																																																																																																			
	昼間	56																																																																																																																																																																																			
	夕	40																																																																																																																																																																																			
	夜間	42																																																																																																																																																																																			
予測地点	区分	暗騒音レベル																																																																																																																																																																																			
St.3	昼間	51																																																																																																																																																																																			
	夜間	40																																																																																																																																																																																			
予測地点	区分	暗騒音レベル ①	施設の稼働による寄与値 ②	合成騒音レベル ③	増加量																																																																																																																																																																																
St.1	朝	40	36.6	42	1.6																																																																																																																																																																																
	昼間	51	52.2	55	3.6																																																																																																																																																																																
	夕	41	36.6	42	1.4																																																																																																																																																																																
St.2	朝	44	36.8	45	0.8																																																																																																																																																																																
	昼間	56	52.2	58	1.5																																																																																																																																																																																
	夕	40	36.8	42	1.7																																																																																																																																																																																
St.2	朝	44	36.8	43	1.1																																																																																																																																																																																
	昼間	42	36.8	43	1.1																																																																																																																																																																																
	夜間	42	36.8	43	1.1																																																																																																																																																																																
予測対象敷地境界区間の最大地点	朝	44	43.6	47	2.8																																																																																																																																																																																
	昼間	56	59.1	61	4.8																																																																																																																																																																																
	夕	41	43.6	46	4.5																																																																																																																																																																																
	夜間	42	43.6	46	3.9																																																																																																																																																																																
予測地点	区分	暗騒音レベル ①	施設の稼働による寄与値 ②	合成騒音レベル ③	増加量																																																																																																																																																																																
St.3	昼間	51	33.2	51	0.1																																																																																																																																																																																
	夜間	40	17.8	40	0.0																																																																																																																																																																																
予測地点	区分	予測結果	環境保全目標																																																																																																																																																																																		
St.1	朝	42	60																																																																																																																																																																																		
	昼間	55	65																																																																																																																																																																																		
	夕	42	60																																																																																																																																																																																		
	夜間	42	50																																																																																																																																																																																		
St.2	朝	45	60																																																																																																																																																																																		
	昼間	58	65																																																																																																																																																																																		
	夕	42	60																																																																																																																																																																																		
	夜間	43	50																																																																																																																																																																																		
予測対象敷地境界区間の最大地点	朝	47	60																																																																																																																																																																																		
	昼間	61	65																																																																																																																																																																																		
	夕	46	60																																																																																																																																																																																		
	夜間	46	50																																																																																																																																																																																		
予測地点	区分	予測結果	環境保全目標																																																																																																																																																																																		
St.3	昼間	51	60																																																																																																																																																																																		
	夜間	40	50																																																																																																																																																																																		

表 8-1.8 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																	
騒音	存在・供用（廃棄物運搬車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <p>・道路交通騒音 県道六条院東里庄線の St.3 では 67dB、St.4 では 65dB で、いずれも幹線交通を担う道路に近接する区域の環境基準値以下であった。 町道新庄 613 号線の St.5 では 60d で、St.6 では 52d で、該当する C 地域のうち、車線を有する道路に面する地域の環境基準値以下であった。</p> <p><道路交通騒音調査結果（等価騒音レベル L_{Aeq}） 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th>平日</th> <th>環境基準値</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>昼間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.3</td> <td>67</td> <td rowspan="2">70</td> </tr> <tr> <td>St.4</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>St.5</td> <td>60</td> <td rowspan="2">65</td> </tr> <tr> <td>St.6</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 昼間の時間区分は、6 時～22 時を示す。 2. 環境基準値は以下のとおりとした。 St.3～4：騒音に係る環境基準の道路に面する地域のうち、幹線交通を担う道路に近接する空間の値 St.5～6：C 地域のうち車線を有する道路に面する地域の値</p>	調査地点	平日	環境基準値	昼間	昼間	St.3	67	70	St.4	65	St.5	60	65	St.6	52	<p>■予測結果</p> <p>予測は、廃棄物運搬車両等の走行に伴う騒音の環境影響が最大となる時期とし、施設の稼働後において廃棄物運搬車両の走行が通常となる時期とし、予測に用いる車両台数は、現況交通量に施設関係車両台数（廃棄物運搬車両、施設関係者の通勤車両）を加算した台数とした。 廃棄物運搬車両等の走行に伴う騒音レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。 各地点の予測騒音レベルは、54～67dB であった。</p> <p><廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通騒音（L_{Aeq}）の予測結果> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間区分</th> <th colspan="3">予測結果</th> <th rowspan="2">現況騒音レベル ④</th> <th rowspan="2">予測騒音レベル ③+④</th> </tr> <tr> <th>現況交通による予測結果 ①</th> <th>将来交通による予測結果 ②</th> <th>増加量 ③ (②-①)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.3</td> <td>昼間</td> <td>63.6</td> <td>63.9</td> <td>0.3</td> <td>67</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>St.4</td> <td>昼間</td> <td>61.0</td> <td>62.3</td> <td>1.3</td> <td>65</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>St.5</td> <td>昼間</td> <td>58.0</td> <td>62.1</td> <td>4.1</td> <td>60</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>St.6</td> <td>昼間</td> <td>48.2</td> <td>50.2</td> <td>2.0</td> <td>52</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況騒音レベルは、現地調査結果の昼間の時間帯の等価騒音レベルを示す。</p>	予測地点	時間区分	予測結果			現況騒音レベル ④	予測騒音レベル ③+④	現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)	St.3	昼間	63.6	63.9	0.3	67	67	St.4	昼間	61.0	62.3	1.3	65	66	St.5	昼間	58.0	62.1	4.1	60	64	St.6	昼間	48.2	50.2	2.0	52	54	<p>■事業計画で実施することとしている環境保全措置</p> <p>・整備・点検の徹底：整備・点検を徹底し、不要な騒音を発生させないよう努める。 ・走行ルートの配慮：廃棄物運搬車両の走行ルートは、可能な限り国道または県道等の車道幅員が広い走行ルートを設定し、車道幅員が狭く、沿道に住居が密集するようなルートの利用を極力避ける。</p> <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <p>・運転手の教育・指導：走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通騒音の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通騒音の予測結果は、下表に示すとおりであり、予測結果は、全地点のすべての時間区分で環境保全目標を下回ることから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p><廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通騒音（L_{Aeq}）の評価結果> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時間区分</th> <th>現況騒音レベル</th> <th>予測騒音レベル</th> <th>増加量</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.3</td> <td>昼間</td> <td>67</td> <td>67</td> <td>0.3</td> <td rowspan="2">70^{注1}</td> </tr> <tr> <td>St.4</td> <td>昼間</td> <td>65</td> <td>66</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>St.5</td> <td>昼間</td> <td>60</td> <td>64</td> <td>4.1</td> <td rowspan="2">65^{注2}</td> </tr> <tr> <td>St.6</td> <td>昼間</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準のうち幹線交通を担う道路に近接する空間で適用される基準 2. 「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準のうち C 地域の車線を有する道路に面する地域で適用される環境基準</p>	予測地点	時間区分	現況騒音レベル	予測騒音レベル	増加量	環境保全目標	St.3	昼間	67	67	0.3	70 ^{注1}	St.4	昼間	65	66	1.3	St.5	昼間	60	64	4.1	65 ^{注2}	St.6	昼間	52	54	2.0	<p>■事後調査の要否 「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。 ただし、予測結果は環境保全目標に近接するレベルであるうえに、廃棄物運搬車両が最も多く走行する町道新庄 613 号線 (St.5) では現況騒音レベルからの増加量が比較的大きい。また、施設供用時には「一般国道 玉島・笠岡道路」は供用されているが、予測時点では当該道路は工事中であり、将来、予測地域周辺の自動車交通状況が大きく変化する可能性がある。 以上のことから、廃棄物運搬車両等の走行に伴う騒音の影響に係る調査を実施する。</p>
調査地点	平日	環境基準値																																																																																					
	昼間	昼間																																																																																					
St.3	67	70																																																																																					
St.4	65																																																																																						
St.5	60	65																																																																																					
St.6	52																																																																																						
予測地点	時間区分	予測結果			現況騒音レベル ④	予測騒音レベル ③+④																																																																																	
		現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)																																																																																			
St.3	昼間	63.6	63.9	0.3	67	67																																																																																	
St.4	昼間	61.0	62.3	1.3	65	66																																																																																	
St.5	昼間	58.0	62.1	4.1	60	64																																																																																	
St.6	昼間	48.2	50.2	2.0	52	54																																																																																	
予測地点	時間区分	現況騒音レベル	予測騒音レベル	増加量	環境保全目標																																																																																		
St.3	昼間	67	67	0.3	70 ^{注1}																																																																																		
St.4	昼間	65	66	1.3																																																																																			
St.5	昼間	60	64	4.1	65 ^{注2}																																																																																		
St.6	昼間	52	54	2.0																																																																																			

表 8-1.9 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																								
振動	工事の実施（建設機械の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>・環境振動（時間率振動レベル L_{10}）</p> <p>敷地境界北側 St. 1 では平日休日、昼夜間のいずれの時間帯においても測定下限値の 30dB 未満であった。</p> <p>敷地境界南側 St. 2 も同様に平日休日、昼夜間のいずれの時間帯においても測定下限値の 30dB 未満であった。いずれも特定工場に係る環境基準値以下であった。</p> <p style="text-align: center;">＜環境振動調査結果（時間率振動レベル L_{10}）＞</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> <th colspan="2">規制基準値（第2種区域）</th> <th rowspan="2">感覚閾値</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 1</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td rowspan="2">65</td> <td rowspan="2">60</td> <td rowspan="2">55</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「30dB 未満」は定量下限値である 30dB を下回ったことを示す。 2. 時間区分は、昼間：7 時～20 時、夜間：20 時～翌 7 時を示す。 3. 規制基準値は、振動に係る規制基準のうち、対象事業実施区域が位置する第 2 種区域で適用される、特定工場等において発生する振動の規制基準値を示す。 4. 感覚閾値は、人間が振動を感じ始めるとされる振動感覚閾値 55dB を示す。</p> <p>・暗振動</p> <p>敷地境界 St. 1 及び St. 2 の暗振動は、現地調査結果の時間率振動レベル (L_{10}) のうち、建設機械の稼働時間（8 時～17 時）における 1 時間値の最大値を用いた。</p> <p style="text-align: center;">＜暗振動の 1 時間値の最大値（時間率振動レベル (L_{10}）＞</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>暗振動レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 1</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>30dB</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>30dB</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現地調査結果は、両地点とも 8 時～17 時の時間率振動レベルの 80% 上端値がそれぞれ「30dB 未満」であったことから、予測には暗振動レベルを「30dB」として扱った。 2. St. 3 は、St. 1 及び St. 2 で設定した暗振動レベル</p>	調査地点	平日		休日		規制基準値（第2種区域）		感覚閾値	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	St. 1	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満	65	60	55	St. 2	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満	予測地点	暗振動レベル	St. 1	30dB	St. 2	30dB	St. 3	30dB	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事工程の中から、工事の種類や使用建設機械の種類及び台数を考慮し、周辺環境への影響が大きくなると想定される時期として 2 ケースに分けて予測した。</p> <p>建設機械の稼働に伴う振動レベル (L_{A5}) の予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>ケース 1 の予測の結果は、St. 1 が 60dB、St. 2 が 52dB、St. 3 が 49dB、敷地境界の最大値が 66dB であった。</p> <p>ケース 2 の予測の結果は、St. 1 が 63dB、St. 2 が 50dB、St. 3 が 50dB、敷地境界の最大値が 65dB であった、</p> <p style="text-align: center;">＜建設機械の稼働に伴う建設作業振動の予測結果＞</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測ケース</th> <th>予測地点</th> <th>暗振動レベル (①)</th> <th>建設機械の稼働による寄与値 (②)</th> <th>合成振動レベル (①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1</td> <td>St. 1</td> <td>30</td> <td>59.8</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>30</td> <td>52.1</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>30</td> <td>49.0</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>30</td> <td>66.1</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2</td> <td>St. 1</td> <td>30</td> <td>62.7</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>30</td> <td>50.1</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>St. 3</td> <td>30</td> <td>50.0</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>30</td> <td>65.3</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 予測対象敷地境界区間の最大地点の暗振動レベルは、St. 1 及び St. 2 の暗振動レベルと同様とした。</p>	予測ケース	予測地点	暗振動レベル (①)	建設機械の稼働による寄与値 (②)	合成振動レベル (①+②)	1	St. 1	30	59.8	60	St. 2	30	52.1	52	St. 3	30	49.0	49	予測対象敷地境界区間の最大地点	30	66.1	66	2	St. 1	30	62.7	63	St. 2	30	50.1	50	St. 3	30	50.0	50	予測対象敷地境界区間の最大地点	30	65.3	65	<p>■事業計画で実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 低振動型建設機械の使用：建設機械は、低振動型のものを使用し、整備、点検を徹底する。 建設機械の稼働分散：発生振動が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討し、集中稼働を避け、効率的な稼働に努める。 建設機械の稼働時間の配慮：建設機械は日中の稼働を基本とし、原則、夜間の稼働は行わないものとする。 工事期間中の測定：工事期間中の振動を連続測定するとともに、測定値を表示するなど、周辺環境の保全に配慮する。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業方法の配慮：建設機械の不要な空ぶかしの防止や、待機時のアイドルングストップを遵守するよう作業員への指導・徹底を行う。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、建設機械の稼働に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>建設機械の稼働に伴う振動の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">＜建設機械の稼働に伴う振動の評価結果（敷地境界）＞</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測ケース</th> <th>予測地点</th> <th>振動レベル (L_{10})</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1</td> <td>St. 1</td> <td>60</td> <td rowspan="3">75</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2</td> <td>St. 1</td> <td>63</td> <td rowspan="3">75</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 表中の数値は L_{10}（時間率振動レベル） 注) 2. 時間区分は、昼間（昼間：6 時～22 時） 注) 3. 環境保全目標は「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」のうち工事区域敷地境界で適用される規制基準</p> <p style="text-align: center;">＜建設機械の稼働に伴う振動の評価結果（敷地境界）＞</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測ケース</th> <th>予測地点</th> <th>振動レベル (L_{10})</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">St. 3</td> <td>49</td> <td rowspan="2">55</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は、人間が振動を感じ始めるとされる振動感覚閾値 55dB を示す。</p>	予測ケース	予測地点	振動レベル (L_{10})	環境保全目標	1	St. 1	60	75	St. 2	52	予測対象敷地境界区間の最大地点	66	2	St. 1	63	75	St. 2	50	予測対象敷地境界区間の最大地点	65	予測ケース	予測地点	振動レベル (L_{10})	環境保全目標	1	St. 3	49	55	2	50	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、建設機械の稼働条件には不確実性が含まれる。そこで、建設機械の稼働に伴う振動の影響に係る調査を実施する。</p>
調査地点	平日			休日		規制基準値（第2種区域）		感覚閾値																																																																																																						
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間																																																																																																								
St. 1	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満	65	60	55																																																																																																							
St. 2	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満																																																																																																										
予測地点	暗振動レベル																																																																																																													
St. 1	30dB																																																																																																													
St. 2	30dB																																																																																																													
St. 3	30dB																																																																																																													
予測ケース	予測地点	暗振動レベル (①)	建設機械の稼働による寄与値 (②)	合成振動レベル (①+②)																																																																																																										
1	St. 1	30	59.8	60																																																																																																										
	St. 2	30	52.1	52																																																																																																										
	St. 3	30	49.0	49																																																																																																										
	予測対象敷地境界区間の最大地点	30	66.1	66																																																																																																										
2	St. 1	30	62.7	63																																																																																																										
	St. 2	30	50.1	50																																																																																																										
	St. 3	30	50.0	50																																																																																																										
	予測対象敷地境界区間の最大地点	30	65.3	65																																																																																																										
予測ケース	予測地点	振動レベル (L_{10})	環境保全目標																																																																																																											
1	St. 1	60	75																																																																																																											
	St. 2	52																																																																																																												
	予測対象敷地境界区間の最大地点	66																																																																																																												
2	St. 1	63	75																																																																																																											
	St. 2	50																																																																																																												
	予測対象敷地境界区間の最大地点	65																																																																																																												
予測ケース	予測地点	振動レベル (L_{10})	環境保全目標																																																																																																											
1	St. 3	49	55																																																																																																											
2		50																																																																																																												

表 8-1.10 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																														
振動	工事の実施（工事用車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <p>・道路交通振動 県道六条院東里庄線の St. 3 では、平日昼間が 38dB、休日昼間が 33dB で平日休日の夜間はいずれも測定下限値未満の 30dB 未満であった。St. 4 では、平日昼間が 41dB、休日昼間が 38dB で平日休日の夜間はいずれも定量下限値未満の 30dB 未満であった。 町道新庄 613 号線の St. 5 及び St. 6 では、平日休日の昼夜間の全てで 30dB 未満であった。いずれも第 2 種区域で適用される要請限度以下であった。</p> <p>＜道路交通振動調査結果（時間率振動レベル L₁₀）＞ 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> <th colspan="2">要請限度（第 2 種区域）</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>38</td> <td>30 未満</td> <td>33</td> <td>30 未満</td> <td rowspan="4">70</td> <td rowspan="4">65</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>41</td> <td>30 未満</td> <td>38</td> <td>30 未満</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>30 未満</td> <td>30 未満</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「30dB 未満」は定量下限値である 30dB を下回ったことを示す。 2. 時間区分は、昼間：7 時～20 時、夜間：20 時～翌 7 時を示す。 3. 要請限度は、振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度のうち、対象事業実施区域が位置する第 2 種区域で適用される値を示す。</p> <p>・地盤卓越振動数 各地点の地盤卓越振動は、18～31Hz であった。</p> <p>＜地盤卓越振動数調査結果＞ 単位：Hz</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>地盤卓越振動数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	平日		休日		要請限度（第 2 種区域）		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	St. 3	38	30 未満	33	30 未満	70	65	St. 4	41	30 未満	38	30 未満	St. 5	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満	St. 6	30 未満	30 未満	—	—	調査地点	地盤卓越振動数	St. 3	20	St. 4	18	St. 5	25	St. 6	31	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事用車両等の走行による振動に係る環境影響が最大となる時期とした。 工事の実施における、工事用車両等の走行に伴う振動レベルは以下に示すとおりである。 St. 3～St. 6 の予測振動レベルは、34～49dB であった。</p> <p>＜工事用車両等の走行に伴う道路交通振動（L₁₀）の予測結果＞ 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間区分</th> <th colspan="3">予測結果</th> <th rowspan="2">現況振動レベル ④</th> <th rowspan="2">予測振動レベル ③+④</th> </tr> <tr> <th>現況交通による予測結果 ①</th> <th>将来交通による予測結果 ②</th> <th>増加量 ③ (②-①)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>昼間</td> <td>33.1</td> <td>35.4</td> <td>2.3</td> <td>38</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>昼間</td> <td>33.4</td> <td>35.8</td> <td>2.4</td> <td>41</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>昼間</td> <td>22.2</td> <td>26.2</td> <td>4.0</td> <td>30</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>昼間</td> <td>1.1</td> <td>20.1</td> <td>19.0</td> <td>30</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況振動レベルは、現地調査結果の昼間の時間帯の時間率振動レベルを示す。St. 5 及び St. 6 は「30dB 未満」であったが、現況振動レベルには 30dB として扱った。</p>	予測地点	時間区分	予測結果			現況振動レベル ④	予測振動レベル ③+④	現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)	St. 3	昼間	33.1	35.4	2.3	38	40	St. 4	昼間	33.4	35.8	2.4	41	43	St. 5	昼間	22.2	26.2	4.0	30	34	St. 6	昼間	1.1	20.1	19.0	30	49	<p>■事業計画実施することとしている環境保全措置</p> <p>・整備・点検の徹底：整備・点検を徹底し不要な振動を発生させないように努める。 ・工事用車両の分散：工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。</p> <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <p>・エコドライブの実施：不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速など高負荷運転防止を徹底する。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、工事用車両等の走行に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>工事用車両等の走行に伴う振動の評価結果は、下記に示すとおりであり、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p>＜工事用車両等の走行に伴う道路交通振動（L₁₀）の評価結果＞ 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時間区分</th> <th>現況振動レベル</th> <th>予測振動レベル</th> <th>増加量</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>昼間</td> <td>38</td> <td>40</td> <td>2.3</td> <td rowspan="4">55</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>43</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>34</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>49</td> <td>19.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は、人間が振動を感じ始めるとされる振動感覚閾値 55dB を示す。</p>	予測地点	時間区分	現況振動レベル	予測振動レベル	増加量	環境保全目標	St. 3	昼間	38	40	2.3	55	St. 4	昼間	41	43	2.4	St. 5	昼間	30	34	4.0	St. 6	昼間	30	49	19.0	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、本事業の工事期間中に「一般国道玉島・笠岡道路」が供用開始となる予定であるが、現況調査時点では当該道路は工事中であり、将来、予測地域周辺の自動車交通状況が大きく変化する可能性がある。</p> <p>以上のことから、工事用車両等の走行に伴う振動の影響に係る調査を実施する。</p>
調査地点	平日			休日		要請限度（第 2 種区域）																																																																																																														
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間																																																																																																														
St. 3	38	30 未満	33	30 未満	70	65																																																																																																														
St. 4	41	30 未満	38	30 未満																																																																																																																
St. 5	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満																																																																																																																
St. 6	30 未満	30 未満	—	—																																																																																																																
調査地点	地盤卓越振動数																																																																																																																			
St. 3	20																																																																																																																			
St. 4	18																																																																																																																			
St. 5	25																																																																																																																			
St. 6	31																																																																																																																			
予測地点	時間区分	予測結果			現況振動レベル ④	予測振動レベル ③+④																																																																																																														
		現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)																																																																																																																
St. 3	昼間	33.1	35.4	2.3	38	40																																																																																																														
St. 4	昼間	33.4	35.8	2.4	41	43																																																																																																														
St. 5	昼間	22.2	26.2	4.0	30	34																																																																																																														
St. 6	昼間	1.1	20.1	19.0	30	49																																																																																																														
予測地点	時間区分	現況振動レベル	予測振動レベル	増加量	環境保全目標																																																																																																															
St. 3	昼間	38	40	2.3	55																																																																																																															
St. 4	昼間	41	43	2.4																																																																																																																
St. 5	昼間	30	34	4.0																																																																																																																
St. 6	昼間	30	49	19.0																																																																																																																

表 8-1.11 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																							
振動	存在・供用（施設の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>・暗振動 敷地境界 St.1 及び St.2 の暗振動は、現地調査結果の時間率振動レベル (L₁₀) とした。</p> <p><暗振動の1時間値の最大値（時間率振動レベル (L₁₀) > 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>暗振動レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.1</td> <td>昼間</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">St.2</td> <td>昼間</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">St.3</td> <td>昼間</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現地調査結果は両地点のいずれの時間区分も「30dB 未満」であったが、暗振動レベルには 30dB として用いた。 2. 時間区分は、昼間：7時～20時、夜間：20時～翌7時を示す。 3. St.3 は、St.1 及び St.2 で設定した暗振動レベル</p>	予測地点	区分	暗振動レベル	St.1	昼間	30	夜間	30	St.2	昼間	30	夜間	30	St.3	昼間	30	夜間	30	<p>■予測結果</p> <p>予測は、施設の稼働による振動に係る環境影響が最大となる時期として、施設の稼働が通常となる時期とし、予測にあつては、施設内に設置され、振動の主な発生源になると見込まれる機器類を想定した。</p> <p>施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。 合成振動レベルで最も高かったのは、予測対象敷地境界区間の最大地点の昼間で 39dB であった。</p> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果（敷地境界）> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>暗振動レベル ①</th> <th>施設の稼働による寄与値 ②</th> <th>合成振動レベル ③</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.1</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>37.8</td> <td>39</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> <td>26.8</td> <td>32</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">St.2</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>30.4</td> <td>33</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> <td>27.3</td> <td>32</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">St.3</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>25.6</td> <td>31</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> <td>18.6</td> <td>30</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>38.3</td> <td>39</td> <td>8.9</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> <td>32.9</td> <td>35</td> <td>4.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 時間区分は、昼間：7時～20時、夜間：20時～翌7時を示す。 2. 予測対象敷地境界区間の最大地点の暗振動レベルは、St.1 及び St.2 の暗振動レベルと同様とした。 3. 暗振動レベルは、現地調査結果の時間率振動レベルの 80%レンジ上端値 (L₁₀) であり、統計的な指標であることから、厳密に合成値を求めることはできないが、振動レベルの合成計算方法を準用して算出した値を合成振動レベル (L₁₀) として示す。</p>	予測地点	区分	暗振動レベル ①	施設の稼働による寄与値 ②	合成振動レベル ③	増加量	St.1	昼間	30	37.8	39	8.5	夜間	30	26.8	32	1.7	St.2	昼間	30	30.4	33	3.2	夜間	30	27.3	32	1.9	St.3	昼間	30	25.6	31	1.3	夜間	30	18.6	30	0.3	予測対象敷地境界区間の最大地点	昼間	30	38.3	39	8.9	夜間	30	32.9	35	4.7	<p>■事業計画実施することとしている環境保全措置</p> <p>・振動発生機器の配慮：振動発生源となる設備機器は強固な基礎上に設置することとし、設備は低振動型を選定する。特に、振動の大きい機器は独立基礎にするなど、効果的に防振基礎を設置する。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う振動の予測結果は、下表に示すとおりであり、予測結果は、全地点のすべての時間区分で環境保全目標を下回ることから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの評価結果（敷地境界）> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.1</td> <td>昼間</td> <td>39</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>32</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">St.2</td> <td>昼間</td> <td>33</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>32</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">予測対象敷地境界区間の最大地点</td> <td>昼間</td> <td>39</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>35</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「特定工場等に関する振動の規制」のうち第2種区域に適用される基準</p> <p><施設の稼働に伴う振動レベルの評価結果（直近民家）> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>区分</th> <th>予測結果</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">St.3</td> <td>昼間</td> <td>31</td> <td rowspan="2">55</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は、人間が振動を感じ始めるとされる振動感覚閾値 55dB を示す。</p>	予測地点	区分	予測結果	環境保全目標	St.1	昼間	39	65	夜間	32	60	St.2	昼間	33	65	夜間	32	60	予測対象敷地境界区間の最大地点	昼間	39	65	夜間	35	60	予測地点	区分	予測結果	環境保全目標	St.3	昼間	31	55	夜間	30	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、実施設計において主要な振動発生機器の種類、配置及び稼働時間や、施設の構造条件等が変更になる等、振動発生源条件に不確実性が含まれる。そこで、施設の稼働に伴う振動の影響に係る調査を実施する。</p>
予測地点	区分	暗振動レベル																																																																																																											
St.1	昼間	30																																																																																																											
	夜間	30																																																																																																											
St.2	昼間	30																																																																																																											
	夜間	30																																																																																																											
St.3	昼間	30																																																																																																											
	夜間	30																																																																																																											
予測地点	区分	暗振動レベル ①	施設の稼働による寄与値 ②	合成振動レベル ③	増加量																																																																																																								
St.1	昼間	30	37.8	39	8.5																																																																																																								
	夜間	30	26.8	32	1.7																																																																																																								
St.2	昼間	30	30.4	33	3.2																																																																																																								
	夜間	30	27.3	32	1.9																																																																																																								
St.3	昼間	30	25.6	31	1.3																																																																																																								
	夜間	30	18.6	30	0.3																																																																																																								
予測対象敷地境界区間の最大地点	昼間	30	38.3	39	8.9																																																																																																								
	夜間	30	32.9	35	4.7																																																																																																								
予測地点	区分	予測結果	環境保全目標																																																																																																										
St.1	昼間	39	65																																																																																																										
	夜間	32	60																																																																																																										
St.2	昼間	33	65																																																																																																										
	夜間	32	60																																																																																																										
予測対象敷地境界区間の最大地点	昼間	39	65																																																																																																										
	夜間	35	60																																																																																																										
予測地点	区分	予測結果	環境保全目標																																																																																																										
St.3	昼間	31	55																																																																																																										
	夜間	30																																																																																																											

表 8-1.12 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																															
振動	存在・供用（廃棄物運搬車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <p>・道路交通振動 県道六条院東里庄線の St. 3 は 38dB、St. 4 は 41dB であった。 町道新庄 613 号線の St. 5 及び St. 6 は 30dB 未満で、いずれも第 2 種区域で適用される要請限度以下であった。</p> <p><道路交通振動調査結果（時間率振動レベル L₁₀）> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th>平日</th> <th>要請限度（第 2 種区域）</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>昼間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>38</td> <td rowspan="4">70</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>30 未満</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>30 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「30dB 未満」は定量下限値である 30dB を下回ったことを示す。 2. 昼間の時間区分は、7 時～20 時を示す。 3. 要請限度は、振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度のうち、対象事業実施区域が位置する第 2 種区域で適用される値を示す。</p>	調査地点	平日	要請限度（第 2 種区域）	昼間	昼間	St. 3	38	70	St. 4	41	St. 5	30 未満	St. 6	30 未満	<p>■予測結果</p> <p>予測は、廃棄物の運搬車両等の走行に伴う振動の環境影響が最大となる時期とし、施設の稼働後において廃棄物運搬車両の走行が通常となる時期とし、予測に用いる車両台数は、現況交通量に施設関係車両台数（廃棄物運搬車両、施設関係者の通勤車両）を加算した台数とした。</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴う振動レベルの予測結果は、以下に示すとおりである。</p> <p>各地点の予測振動レベルは、34～43dB であった。</p> <p><廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通振動（L₁₀）の予測結果> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測地点</th> <th rowspan="2">時間区分</th> <th colspan="3">予測結果</th> <th rowspan="2">現況振動レベル ④</th> <th rowspan="2">予測振動レベル ③+④</th> </tr> <tr> <th>現況交通による予測結果 ①</th> <th>将来交通による予測結果 ②</th> <th>増加量 ③ (②-①)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>昼間</td> <td>33.1</td> <td>33.5</td> <td>0.4</td> <td>38</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>昼間</td> <td>33.4</td> <td>35.6</td> <td>2.2</td> <td>41</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>昼間</td> <td>22.2</td> <td>26.6</td> <td>4.4</td> <td>30</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>昼間</td> <td>1.1</td> <td>6.3</td> <td>5.2</td> <td>30</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現況振動レベルは、現地調査結果の昼間の時間帯の時間率振動レベルを示す。St. 5 及び St. 6 は「30dB 未満」であったが、現況振動レベルには 30dB として扱った。</p>	予測地点	時間区分	予測結果			現況振動レベル ④	予測振動レベル ③+④	現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)	St. 3	昼間	33.1	33.5	0.4	38	38	St. 4	昼間	33.4	35.6	2.2	41	43	St. 5	昼間	22.2	26.6	4.4	30	34	St. 6	昼間	1.1	6.3	5.2	30	35	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <p>・整備・点検の徹底：整備・点検を徹底し、不要な振動を生じさせないように努める。 ・走行ルートの配慮：廃棄物運搬車両の走行ルートは、可能な限り国道または県道等の車道幅員が広い走行ルートを設定し、車道幅員が狭く、沿道に住居が密集するようなルートの利用を極力避ける。</p> <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <p>・運転手の教育・指導：走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、廃棄物運搬車両等の走行に伴う振動の影響は、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>廃棄物運搬車両等の走行に伴う振動の予測結果は、下表に示すとおりであり、予測結果は、全地点のすべての時間区分で環境保全目標を下回ることから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価した。</p> <p><廃棄物運搬車両等の走行に伴う道路交通振動（L₁₀）の評価結果> 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時間区分</th> <th>現況振動レベル</th> <th>予測振動レベル</th> <th>増加量</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St. 3</td> <td>昼間</td> <td>38</td> <td>38</td> <td>0.4</td> <td rowspan="4">55</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> <td>昼間</td> <td>41</td> <td>43</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>34</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> <td>昼間</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>5.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は、人間が振動を感じ始めるとされる振動感覚閾値 55dB を示す。</p>	予測地点	時間区分	現況振動レベル	予測振動レベル	増加量	環境保全目標	St. 3	昼間	38	38	0.4	55	St. 4	昼間	41	43	2.2	St. 5	昼間	30	34	4.4	St. 6	昼間	30	35	5.2	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、廃棄物運搬車両が最も多く走行する町道新庄 613 号線（St. 5）では現況振動レベルからの増加量が比較的大きい。また、施設供用時には「一般国道玉島・笠岡道路」は供用されているが、現況調査時点では当該道路は工事中であり、将来、予測地域周辺の自動車交通状況が大きく変化する可能性がある。</p> <p>以上のことから、廃棄物運搬車両等の走行に伴う振動の影響に係る調査を実施する。</p>
調査地点	平日	要請限度（第 2 種区域）																																																																																			
	昼間	昼間																																																																																			
St. 3	38	70																																																																																			
St. 4	41																																																																																				
St. 5	30 未満																																																																																				
St. 6	30 未満																																																																																				
予測地点	時間区分	予測結果			現況振動レベル ④	予測振動レベル ③+④																																																																															
		現況交通による予測結果 ①	将来交通による予測結果 ②	増加量 ③ (②-①)																																																																																	
St. 3	昼間	33.1	33.5	0.4	38	38																																																																															
St. 4	昼間	33.4	35.6	2.2	41	43																																																																															
St. 5	昼間	22.2	26.6	4.4	30	34																																																																															
St. 6	昼間	1.1	6.3	5.2	30	35																																																																															
予測地点	時間区分	現況振動レベル	予測振動レベル	増加量	環境保全目標																																																																																
St. 3	昼間	38	38	0.4	55																																																																																
St. 4	昼間	41	43	2.2																																																																																	
St. 5	昼間	30	34	4.4																																																																																	
St. 6	昼間	30	35	5.2																																																																																	

表 8-1.13 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																						
悪臭	存在・供用（施設の稼働）	<p>■現地調査結果</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺における調査結果は、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド及びノルマルブチルアルデヒドを除く全てが定量下限値未満であった。また、全ての項目が敷地境界における規制基準を満足していた。</p> <p>■事例調査結果</p> <p>現施設煙道における特定悪臭物質の調査結果は、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、ノルマルバレラルデヒド及びイソバレラルデヒドを除く全てが定量下限値未満であった。また、臭気指数は 30 であった。</p> <p>＜悪臭調査結果（概略）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>特定悪臭物質</th> <th>臭気指数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷地境界</td> <td>St. 1</td> <td rowspan="6">規制基準以下</td> </tr> <tr> <td>St. 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">計画地周辺</td> <td>St. 3</td> </tr> <tr> <td>St. 4</td> </tr> <tr> <td>St. 5</td> </tr> <tr> <td>St. 6</td> </tr> <tr> <td>煙道</td> <td>St. 7</td> <td>規制基準以下</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	特定悪臭物質	臭気指数	敷地境界	St. 1	規制基準以下	St. 2	計画地周辺	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	煙道	St. 7	規制基準以下	30	<p>■予測結果</p> <p>予測は、施設の稼働による悪臭に係る環境影響が最大となる時期とし、「煙突排ガスに含まれる悪臭」と「施設からの悪臭の漏洩」について行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却施設稼働時の煙突排ガスに含まれる悪臭 <p>最も影響が大きくなる気象条件の最大着地濃度地点における臭気指数はいずれの気象条件においても 10 未満であった。このため、その他の現地調査地点（予測地点）についても全て 10 未満であると予測される。</p> <p>＜ごみ焼却施設稼働時の煙突排出ガスに伴う悪臭（臭気濃度、臭気指数）の予測結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">予測項目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">最大着地濃度</th> </tr> <tr> <th>大気安定度不安定時</th> <th>上層逆転時</th> <th>接地逆転層崩壊時</th> <th>ダウンウォッシュ時</th> <th>ダウンドラフト時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臭気濃度</td> <td>-</td> <td>0.3</td> <td>1.7</td> <td>0.6</td> <td>0.1</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>臭気指数</td> <td>-</td> <td>10未満</td> <td>10未満</td> <td>10未満</td> <td>10未満</td> <td>10未満</td> </tr> <tr> <td>最大着地距離</td> <td>m</td> <td>90</td> <td>480</td> <td>432</td> <td>660</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却施設稼働時に施設より漏洩する悪臭 <p>現施設の調査結果によると、特定悪臭物質濃度は敷地境界における規制基準値未満、臭気指数は 10 未満であった。</p> <p>また、計画施設では環境保全措置として、脱臭設備や悪臭の漏洩防止等の悪臭防止対策を講じる計画である。</p> <p>これらのことから、廃棄物焼却施設の稼働等に伴う施設からの悪臭の漏洩による敷地境界における特定悪臭物質濃度は規制基準値未満となり、臭気指数は 10 未満となると予測される。</p>	予測項目	単位	最大着地濃度					大気安定度不安定時	上層逆転時	接地逆転層崩壊時	ダウンウォッシュ時	ダウンドラフト時	臭気濃度	-	0.3	1.7	0.6	0.1	2.2	臭気指数	-	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満	最大着地距離	m	90	480	432	660	240	<p>■事業計画上実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱臭設備の設置：施設稼働時には、ごみピットから発生する空気は焼却炉の燃焼空気として吸引し、焼却炉内でごみと共に熱分解を行い、全炉停止時には脱臭装置を設け悪臭の漏洩を低減する。 ・悪臭の漏洩防止：臭気が発生する箇所は負圧として臭気の漏洩を防止し、密閉化等適切な臭気対策を講ずる。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う悪臭の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>施設の稼働に伴う悪臭の影響については、特定悪臭物質濃度は規制基準（第 2 種区域）を満足するものと予想されることから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価した。</p> <p>＜施設の供用に伴う悪臭（煙突排ガスからの悪臭）の評価結果＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>特定悪臭物質名</th> <th>予測結果 (ppm)</th> <th>環境保全目標 (ppm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アンモニア</td><td>1 未満</td><td>1</td></tr> <tr><td>メチルメルカプタン</td><td>0.002 未満</td><td>0.002</td></tr> <tr><td>硫化水素</td><td>0.02 未満</td><td>0.02</td></tr> <tr><td>硫化メチル</td><td>0.01 未満</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>二硫化メチル</td><td>0.009 未満</td><td>0.009</td></tr> <tr><td>トリメチルアミン</td><td>0.005 未満</td><td>0.005</td></tr> <tr><td>アセトアルデヒド</td><td>0.05 未満</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>プロピオンアルデヒド</td><td>0.05 未満</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>ノルマルブチルアルデヒド</td><td>0.009 未満</td><td>0.009</td></tr> <tr><td>イソブチルアルデヒド</td><td>0.02 未満</td><td>0.02</td></tr> <tr><td>ノルマルバレラルデヒド</td><td>0.009 未満</td><td>0.009</td></tr> <tr><td>イソバレラルデヒド</td><td>0.003 未満</td><td>0.003</td></tr> <tr><td>イソブタノール</td><td>0.9 未満</td><td>0.9</td></tr> <tr><td>酢酸エチル</td><td>3 未満</td><td>3</td></tr> <tr><td>メチルイソブチルケトン</td><td>1 未満</td><td>1</td></tr> <tr><td>トルエン</td><td>10 未満</td><td>10</td></tr> <tr><td>スチレン</td><td>0.4 未満</td><td>0.4</td></tr> <tr><td>キシレン</td><td>1 未満</td><td>1</td></tr> <tr><td>プロピオン酸</td><td>0.03 未満</td><td>0.03</td></tr> <tr><td>ノルマル酪酸</td><td>0.001 未満</td><td>0.001</td></tr> <tr><td>ノルマル吉草酸</td><td>0.0009 未満</td><td>0.0009</td></tr> <tr><td>イソ吉草酸</td><td>0.001 未満</td><td>0.001</td></tr> </tbody> </table> <p>注）環境保全目標は「悪臭防止法施工規則による敷地境界における規制基準（第 1 号規制）のうち第 2 種区域」で適用される基準</p>	特定悪臭物質名	予測結果 (ppm)	環境保全目標 (ppm)	アンモニア	1 未満	1	メチルメルカプタン	0.002 未満	0.002	硫化水素	0.02 未満	0.02	硫化メチル	0.01 未満	0.01	二硫化メチル	0.009 未満	0.009	トリメチルアミン	0.005 未満	0.005	アセトアルデヒド	0.05 未満	0.05	プロピオンアルデヒド	0.05 未満	0.05	ノルマルブチルアルデヒド	0.009 未満	0.009	イソブチルアルデヒド	0.02 未満	0.02	ノルマルバレラルデヒド	0.009 未満	0.009	イソバレラルデヒド	0.003 未満	0.003	イソブタノール	0.9 未満	0.9	酢酸エチル	3 未満	3	メチルイソブチルケトン	1 未満	1	トルエン	10 未満	10	スチレン	0.4 未満	0.4	キシレン	1 未満	1	プロピオン酸	0.03 未満	0.03	ノルマル酪酸	0.001 未満	0.001	ノルマル吉草酸	0.0009 未満	0.0009	イソ吉草酸	0.001 未満	0.001	<p>■事後調査の要否 「→要」</p> <p>煙突排ガス及び排出口からの悪臭の影響予測で採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。さらに、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>ただし、今後の実施設計において、焼却施設等の形状・構造・配置等が変更となることも考えられるため、施設の稼働に伴う悪臭に係る調査を実施する。</p>
調査地点	特定悪臭物質	臭気指数																																																																																																																										
敷地境界	St. 1	規制基準以下																																																																																																																										
	St. 2																																																																																																																											
計画地周辺	St. 3																																																																																																																											
	St. 4																																																																																																																											
	St. 5																																																																																																																											
	St. 6																																																																																																																											
煙道	St. 7	規制基準以下	30																																																																																																																									
予測項目	単位	最大着地濃度																																																																																																																										
		大気安定度不安定時	上層逆転時	接地逆転層崩壊時	ダウンウォッシュ時	ダウンドラフト時																																																																																																																						
臭気濃度	-	0.3	1.7	0.6	0.1	2.2																																																																																																																						
臭気指数	-	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満																																																																																																																						
最大着地距離	m	90	480	432	660	240																																																																																																																						
特定悪臭物質名	予測結果 (ppm)	環境保全目標 (ppm)																																																																																																																										
アンモニア	1 未満	1																																																																																																																										
メチルメルカプタン	0.002 未満	0.002																																																																																																																										
硫化水素	0.02 未満	0.02																																																																																																																										
硫化メチル	0.01 未満	0.01																																																																																																																										
二硫化メチル	0.009 未満	0.009																																																																																																																										
トリメチルアミン	0.005 未満	0.005																																																																																																																										
アセトアルデヒド	0.05 未満	0.05																																																																																																																										
プロピオンアルデヒド	0.05 未満	0.05																																																																																																																										
ノルマルブチルアルデヒド	0.009 未満	0.009																																																																																																																										
イソブチルアルデヒド	0.02 未満	0.02																																																																																																																										
ノルマルバレラルデヒド	0.009 未満	0.009																																																																																																																										
イソバレラルデヒド	0.003 未満	0.003																																																																																																																										
イソブタノール	0.9 未満	0.9																																																																																																																										
酢酸エチル	3 未満	3																																																																																																																										
メチルイソブチルケトン	1 未満	1																																																																																																																										
トルエン	10 未満	10																																																																																																																										
スチレン	0.4 未満	0.4																																																																																																																										
キシレン	1 未満	1																																																																																																																										
プロピオン酸	0.03 未満	0.03																																																																																																																										
ノルマル酪酸	0.001 未満	0.001																																																																																																																										
ノルマル吉草酸	0.0009 未満	0.0009																																																																																																																										
イソ吉草酸	0.001 未満	0.001																																																																																																																										

表 8-1.14 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																														
水質	工事の実施（土地の改変）	<p>■現地調査結果</p> <p>河川水質の調査対象地点のうち、水の流れが確認された St.1 の水路における河川水質及び降雨時の流量調査を行った。</p> <p>調査対象の水路は、環境基準の類型指定はないため、参考として流入先の今立川の類型（河川 D）と比較した。</p> <p>その結果、冬季の生物化学的酸素要求量（BOD）が環境基準の値を上回った。また、大腸菌群数の値も 13000～24000MPN/100mL と高かったことから、当該地点においては生活雑排水が流入している可能性が考えられた。</p> <p>その他の項目においては、いずれも環境基準を満足していた。</p> <p style="text-align: center;">＜St.1 水質調査結果（概略）＞</p> <table border="1" data-bbox="311 961 825 1186"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>秋</th> <th>冬</th> <th>春</th> <th>夏</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">生活環境項目</td> <td>BOD</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>その他の項目</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">健康項目</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ダイオキシン類</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「×」は水質汚濁に係る環境基準の類型指定で定める「D 類型」の基準を上回ったものを示す。「○」は環境基準を満足したものを示す。 2. 「—」は季節によって調査を実施していない項目を示す。</p> <p>・平常時の河川の流量</p> <p>調査の結果、St.1 の流入先である St.3 の流量は、St.1 の流量に比べ秋季は 6 倍、冬季は 40 倍、春季は 15 倍、夏季は 4 倍程度多い状況であった。</p> <p>・降雨時の河川水質及び流量</p> <p>調査の結果、St.1 の浮遊粒子状物質は最大で 160mg/L で、その時の流量は、2.06 m³/min であった。</p> <table border="1" data-bbox="311 1627 825 1806"> <thead> <tr> <th rowspan="2">測定回数</th> <th colspan="2">St.1</th> </tr> <tr> <th>浮遊粒子状物質 (mg/L)</th> <th>流量 (m³/min)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 回目</td> <td>7～62</td> <td>0.921～1.98</td> </tr> <tr> <td>2 回目</td> <td>42～160</td> <td>0.247～2.25</td> </tr> </tbody> </table>	項目		秋	冬	春	夏	生活環境項目	BOD	○	×	○	○	その他の項目	○	○	○	○	健康項目		—	○	—	○	ダイオキシン類		—	○	—	○	測定回数	St.1		浮遊粒子状物質 (mg/L)	流量 (m ³ /min)	1 回目	7～62	0.921～1.98	2 回目	42～160	0.247～2.25	<p>■予測結果</p> <p>工事の実施に伴い、対象事業実施区域の下流域への雨水排水による浮遊粒子状物質の影響について予測を行った。</p> <p>予測は、土地の改変による浮遊物質量に係る環境影響が最大となる時期とし、「濁水流出量及び濁水濃度」と「河川等における濁水濃度」について行った。</p> <p>・濁水流出量及び濁水濃度</p> <p>濁水濃度（SS）と経過時間の近似式から、目標濁水濃度まで濁水中の濁りが沈降するために必要な時間は 95 分、仮設沈砂池必要容量は 16.5m³と予測された。</p> <p style="text-align: center;">＜仮設沈砂池の必要滞留時間及び必要容量の予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="926 850 1641 951"> <thead> <tr> <th>流出量</th> <th>目標濁水濃度</th> <th>必要滞留時間</th> <th>仮設沈砂池必要容量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10.4m³/h</td> <td>100mg/L未満 (99 mg/L)</td> <td>95 分</td> <td>16.5m³</td> </tr> </tbody> </table> <p>・河川等における濁水濃度</p> <p>河川等の水質（SS 濃度）予測結果は、89.7mg/L と予測された。さらに、St.1 の流入先である干瓜川における現地調査結果の降雨時の流量と比較すると、St.1 の流量は 0.2%程度であり極めて小さい。</p> <p style="text-align: center;">＜濁水予測結果＞</p> <table border="1" data-bbox="902 1224 1662 1346"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>現況 SS 濃度</th> <th>現況流量</th> <th>濁水 SS 濃度</th> <th>濁水 流出量</th> <th>予測 SS 濃度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.1 干瓜地区内水路</td> <td>6 mg/L</td> <td>1.14m³/h</td> <td>98.9 mg/L</td> <td>10.4m³/h</td> <td>89.7 mg/L</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">＜干瓜川 降雨時流量＞</p> <table border="1" data-bbox="902 1436 1700 1806"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査期間</th> <th colspan="2">流量</th> <th rowspan="2">調査期間</th> <th colspan="2">流量</th> </tr> <tr> <th>m³/min</th> <th>m³/h</th> <th>m³/min</th> <th>m³/h</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">降雨時 1 回目</td> <td>①</td> <td>8.81</td> <td rowspan="5">降雨時 2 回目</td> <td>①</td> <td>2.19</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>17.6</td> <td>②</td> <td>8.43</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>11.9</td> <td>③</td> <td>28.9</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>8.15</td> <td>④</td> <td>12.0</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>9.55</td> <td>⑤</td> <td>14.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>平均</td> <td>11.20</td> <td></td> <td>平均</td> <td>13.2</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2">日降水量 55mm（笠岡地域気象観測）</td> <td>備考</td> <td colspan="2">日降水量 33mm（笠岡地域気象観測）</td> </tr> </tbody> </table>	流出量	目標濁水濃度	必要滞留時間	仮設沈砂池必要容量	10.4m ³ /h	100mg/L未満 (99 mg/L)	95 分	16.5m ³	予測地点	現況 SS 濃度	現況流量	濁水 SS 濃度	濁水 流出量	予測 SS 濃度	St.1 干瓜地区内水路	6 mg/L	1.14m ³ /h	98.9 mg/L	10.4m ³ /h	89.7 mg/L	調査期間	流量		調査期間	流量		m ³ /min	m ³ /h	m ³ /min	m ³ /h	降雨時 1 回目	①	8.81	降雨時 2 回目	①	2.19	②	17.6	②	8.43	③	11.9	③	28.9	④	8.15	④	12.0	⑤	9.55	⑤	14.6		平均	11.20		平均	13.2	備考	日降水量 55mm（笠岡地域気象観測）		備考	日降水量 33mm（笠岡地域気象観測）		<p>■事業計画で実施することとしている環境保全措置</p> <p>・仮設沈砂池の設置: 造成区域からの濁水については、放流前位置に仮設沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させて上澄水を放流することにより下流域への濁水の影響を低減する。</p> <p>・濁水の監視: 工事中の濁水の流出状況については濁度計を用いて日常的な監視を行い、濁水の流出が認められた場合は作業の調整または対策を行う。</p> <p>・著しい降雨時の土工事対応: 著しい降雨時の土工事は極力避け、濁水の発生を抑制する。</p>	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、土地の改変に伴う水質の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>対象水路及び下流の干瓜川は環境基準の類型指定がなされていないが、干瓜川流入先の今立川では、「笠岡市の環境保全（令和 3 年度）」（令和 3 年、笠岡市）において、D 類型（100mg/L 以下）を参考として環境の保全に係る評価を行っていることを踏まえ、これを基準または目標とした。</p> <p>ただし、浮遊物質量の水質の環境基準については、公共用水域が通常の状態に適用されるものであり、本来は降雨時には適用の範囲外である。</p> <p>土地の改変に伴う水質（濁水）の影響については、浮遊粒子状物質の水質が水質汚濁に係る環境基準（D 類型：100mg/L）を満足するものと予想されることから、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">＜土地の改変に伴う濁水の予測結果＞</p> <p style="text-align: right;">単位：mg/L</p> <table border="1" data-bbox="2131 1539 2558 1694"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測 SS 濃度</th> <th>環境保全目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.1 干瓜地区内水路</td> <td>89.7</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 環境保全目標は「水質汚濁に係る環境基準」による基準</p>	予測地点	予測 SS 濃度	環境保全目標	St.1 干瓜地区内水路	89.7	100	<p>■事後調査の要否 「→否」</p> <p>水質の影響予測で採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。採用する環境保全措置についても不確実性は小さいと考えられる。</p> <p>また、St.2 下流水路には定常的に水が流れておらず、降雨時の雨水排水側溝としてのみ機能している現状であり、降雨時の濁水流出量は、下流の干瓜川の降雨時の流量の約 0.2%と寄与率が極めて小さい。このことから、事後調査は実施しない。</p>
項目		秋	冬	春	夏																																																																																																															
生活環境項目	BOD	○	×	○	○																																																																																																															
	その他の項目	○	○	○	○																																																																																																															
健康項目		—	○	—	○																																																																																																															
ダイオキシン類		—	○	—	○																																																																																																															
測定回数	St.1																																																																																																																			
	浮遊粒子状物質 (mg/L)	流量 (m ³ /min)																																																																																																																		
1 回目	7～62	0.921～1.98																																																																																																																		
2 回目	42～160	0.247～2.25																																																																																																																		
流出量	目標濁水濃度	必要滞留時間	仮設沈砂池必要容量																																																																																																																	
10.4m ³ /h	100mg/L未満 (99 mg/L)	95 分	16.5m ³																																																																																																																	
予測地点	現況 SS 濃度	現況流量	濁水 SS 濃度	濁水 流出量	予測 SS 濃度																																																																																																															
St.1 干瓜地区内水路	6 mg/L	1.14m ³ /h	98.9 mg/L	10.4m ³ /h	89.7 mg/L																																																																																																															
調査期間	流量		調査期間	流量																																																																																																																
	m ³ /min	m ³ /h		m ³ /min	m ³ /h																																																																																																															
降雨時 1 回目	①	8.81	降雨時 2 回目	①	2.19																																																																																																															
	②	17.6		②	8.43																																																																																																															
	③	11.9		③	28.9																																																																																																															
	④	8.15		④	12.0																																																																																																															
	⑤	9.55		⑤	14.6																																																																																																															
	平均	11.20		平均	13.2																																																																																																															
備考	日降水量 55mm（笠岡地域気象観測）		備考	日降水量 33mm（笠岡地域気象観測）																																																																																																																
予測地点	予測 SS 濃度	環境保全目標																																																																																																																		
St.1 干瓜地区内水路	89.7	100																																																																																																																		

表 8-1.15 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査												
土壌	工事の実施（土地の改変）	<p>■現地調査結果</p> <p>土地の改変に係る調査地域は、掘削を行う対象事業実施区域の範囲とし、調査地点は対象事業実施区域の1地点で調査を行った。その結果、土壌汚染に係る環境基準項目の調査結果は全ての項目で環境基準を満足しており、ダイオキシン類も環境基準を満足していた。</p> <p style="text-align: center;">＜土壌調査結果 概略＞</p> <table border="1" data-bbox="314 814 736 930"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>土壌環境基準項目</th> <th>ダイオキシン類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.1</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)「○」は環境基準を満足したものを示す。</p> <p style="text-align: center;">＜土壌中のダイオキシン類調査結果＞ 単位：pg-TEQ/g-dry</p> <table border="1" data-bbox="314 1066 736 1146"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>調査結果</th> <th>環境基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>St.1</td> <td>2.1</td> <td>1,000</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	土壌環境基準項目	ダイオキシン類	St.1	○	○	調査地点	調査結果	環境基準値	St.1	2.1	1,000	<p>■予測結果</p> <p>土地の形質変更などにより、土壌汚染の問題が生じる行為・要因による影響について予測を行った。予測は、事業による土地の形質変更などにより、土壌汚染の問題が生じる行為・要因に応じて影響を受ける地域を対象に定性的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地の改変に伴う土壌の影響 <p>事業実施区域における土壌現地調査結果によれば、土壌汚染に係る環境基準項目、ダイオキシン類は全ての項目で環境基準値等を満足していた。このため、対象事業実施区域の現況は土壌が良好な状態であると考えられる。</p> <p>工事の実施に際しては、関係法令等を遵守すること、土壌汚染の原因となる物質は使用しないこととする。また、工事により発生した残土については原則場内で再利用する計画であることから、土地の改変に伴う土壌の影響は小さいものと予測する。</p>	<p>■事業計画に上実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 土壌汚染の回避：工事等において、土壌汚染の原因となる物質等は使用しない。 建設発生土の再利用：土地の改変に伴う発生土砂は、場内で利用し、原則的に場外搬出を行わない。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、土地の改変に伴う土壌の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p> <p>■環境保全に関する施策との整合性に係る評価</p> <p>土地の改変に伴う土壌の影響については、掘削予定箇所の土壌は、現況で環境基準値等の全ての項目を満足しており、残土は原則場内利用とする計画であることから土壌汚染が発生・拡散する可能性はほとんどないものと考えらる。以上から、環境保全に関する施策との整合性が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測では現況の土壌の分析結果を用いており不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果についても不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
調査地点	土壌環境基準項目	ダイオキシン類																
St.1	○	○																
調査地点	調査結果	環境基準値																
St.1	2.1	1,000																
存在・供用（施設の稼働）			<p>■予測結果</p> <p>供用後の施設の稼働に伴い煙突排ガスに含まれる有害物質等（ダイオキシン類）による影響について予測を行った。予測は、煙突排ガスに伴うダイオキシン類の環境影響が最大となる地点を対象に、「大気質、建設機械の稼働・施設の稼働等」の有害物質等（ダイオキシン類）の予測結果の引用により定性的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働に伴う土壌の影響 <p>煙突排ガスによるダイオキシン類の最大着地濃度（年平均値）の予測結果は、0.000812pg-TEQ/m³である。また、大気質現地調査結果によると、一般環境大気中のダイオキシン類濃度の年平均値の最大値は0.011pg-TEQ/m³であり、大気中濃度の環境基準値（年平均値で0.6pg-TEQ/m³）と比較して十分に低い値である。</p> <p>このため、煙突排ガスによる大気中のダイオキシン類濃度への寄与は小さく、当該大気からの沈降による土壌への影響は極めて小さいと考えられる。</p>	<p>■事業計画に上実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 焼却設備の適正な運転・維持管理：焼却施設の適正な運転、維持管理により排ガス中の有害物質等の影響を低減する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う土壌の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測結果及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>												

表 8-1.16 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																																																																					
動物（重要な種及び群集並びに注目すべき生息地）	工事の実施（土地の改変）、存在・供用（施設の存在）	<p>■現地調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物相 現況調査で確認された動物の種数を以下に示す。 <table border="1" data-bbox="379 569 914 856"> <caption><動物の確認種数></caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>確認種数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>6目 6科 8種</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>11目 28科 57種</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>2目 2科 4種</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>2目 7科 9種</td> </tr> <tr> <td>昆虫類・クモ類</td> <td>16目 180科 544種</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>2グループ 8科 14種</td> </tr> <tr> <td>底生動物</td> <td>6綱 14目 23科 32種</td> </tr> </tbody> </table> 重要な種 現況調査で確認された重要な種を以下に示す。 <table border="1" data-bbox="338 972 955 1262"> <caption><確認された重要な種></caption> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>確認種数</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>8種</td> <td>ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>1種</td> <td>セトウチサンショウウオ</td> </tr> <tr> <td>昆虫類・クモ類</td> <td>2種</td> <td>コオイムシ、モンスズメバチ</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td>3種</td> <td>ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、<i>Satsuma</i> 属</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) <i>Satsuma</i> 属はアキラマイマイもしくはシメクチマイマイのいずれかであり両種とも重要な種に該当することから重要な種の1種として扱った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 注目すべき生息地 注目すべき生息地として、重要な種であるセトウチサンショウウオの繁殖地が該当する。注目すべき生息地の状況を以下に示す。 <table border="1" data-bbox="344 1549 949 1787"> <caption><注目すべき生息地の状況></caption> <thead> <tr> <th>注目すべき生息地</th> <th>状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セトウチサンショウウオの繁殖地を含む湿地・水路</td> <td>湿地：沢水や雨水等が溜まった環境であり、上流からの水の供給量は少ない。水深は浅く、夏季には表流水が確認できない箇所もある。</td> </tr> <tr> <td>水路：上記湿地の末端部であり、下流側は他の水域・水路には接続していない。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 	項目	確認種数	哺乳類	6目 6科 8種	鳥類	11目 28科 57種	両生類	2目 2科 4種	爬虫類	2目 7科 9種	昆虫類・クモ類	16目 180科 544種	陸産貝類	2グループ 8科 14種	底生動物	6綱 14目 23科 32種	分類	確認種数	種名	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ	両生類	1種	セトウチサンショウウオ	昆虫類・クモ類	2種	コオイムシ、モンスズメバチ	陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属	注目すべき生息地	状況	セトウチサンショウウオの繁殖地を含む湿地・水路	湿地：沢水や雨水等が溜まった環境であり、上流からの水の供給量は少ない。水深は浅く、夏季には表流水が確認できない箇所もある。	水路：上記湿地の末端部であり、下流側は他の水域・水路には接続していない。		<p>■予測結果</p> <p>工事の実施（建設機械の稼働、工事用車両等の走行、土地の改変）、施設の存在及び供用（施設の存在、施設の稼働、廃棄物運搬車両等の走行）が対象事業実施区域及びその周辺に生息する重要な動物へ及ぼす影響について予測を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要な種 重要な動物に対する工事の実施及び施設の存在の予測結果は以下の表に示すとおりである。 予測の結果、重要な動物に対する事業の影響はない、または極めて小さいと予測された。 <table border="1" data-bbox="1003 751 2006 1478"> <caption><重要な動物種の予測結果></caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">種名</th> <th colspan="4">工事の実施</th> <th colspan="4">存在及び供用</th> </tr> <tr> <th>建設機械の稼働</th> <th>工事用車両等の走行</th> <th>土地の改変 直接改変の影響 濁水の影響</th> <th>施設の存在 移動経路の障害 施設照明の影響</th> <th>施設の稼働</th> <th>走行 廃棄物運搬車両等の</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">鳥類</td> <td>ミサゴ</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>無</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>ハチクマ</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>ツミ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>ハイタカ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>フクロウ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>サンショウクイ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>サンコウチョウ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>セトウチサンショウウオ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>存在・供用による影響：無</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">昆虫類・クモ類</td> <td>コオイムシ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>モンスズメバチ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">陸産貝類</td> <td>ヒメカサキビ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>存在・供用による影響：無</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>シメクチマイマイ</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>存在・供用による影響：無</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td><i>Satsuma</i> 属</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>存在・供用による影響：無</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 影響要因ごとにその影響程度を整理し、影響がないものは「無」とし、影響が極めて小さいものは「△」とした。なお、予測の対象としなかった影響要因は「/」で示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 注目すべき生息地 注目すべき生息地に対する工事の実施、施設の存在及び供用の影響予測結果、本事業による注目すべき生息地への影響はないと予測された。 <table border="1" data-bbox="1003 1724 2006 1906"> <caption><注目すべき生息地の予測結果></caption> <thead> <tr> <th>予測結果</th> <th>工事の実施</th> <th>土地の改変</th> <th>予測結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事の実施</td> <td>土地の改変</td> <td>本事業において注目すべき生息地を含む樹林の改変は行わず、当該生息地は対象事業実施区域からの雨水排水経路にもなっていない。このため、土地の改変による注目すべき生息地への影響はないと予測される。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>存在及び供用</td> <td>施設の存在</td> <td>本事業において注目すべき生息地の環境条件に変化は生じないことから、施設の存在による影響はないと予測される。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分類	種名	工事の実施				存在及び供用				建設機械の稼働	工事用車両等の走行	土地の改変 直接改変の影響 濁水の影響	施設の存在 移動経路の障害 施設照明の影響	施設の稼働	走行 廃棄物運搬車両等の	鳥類	ミサゴ	△	△	無	△	△	△	△	ハチクマ	△	△	無	無	△	△	△	ツミ	/	/	無	無	/	/	/	ハイタカ	/	/	△	△	/	/	/	フクロウ	/	/	無	無	/	/	/	ハヤブサ	/	/	無	無	/	/	/	サンショウクイ	/	/	無	無	/	/	/	サンコウチョウ	/	/	無	無	/	/	/	両生類	セトウチサンショウウオ	/	/	無	無	存在・供用による影響：無	/	/	昆虫類・クモ類	コオイムシ	/	/	無	無	/	/	/	モンスズメバチ	/	/	△	△	/	/	/	陸産貝類	ヒメカサキビ	/	/	無	無	存在・供用による影響：無	/	/	シメクチマイマイ	/	/	無	無	存在・供用による影響：無	/	/	<i>Satsuma</i> 属	/	/	△	△	存在・供用による影響：無	/	/	予測結果	工事の実施	土地の改変	予測結果	工事の実施	土地の改変	本事業において注目すべき生息地を含む樹林の改変は行わず、当該生息地は対象事業実施区域からの雨水排水経路にもなっていない。このため、土地の改変による注目すべき生息地への影響はないと予測される。		存在及び供用	施設の存在	本事業において注目すべき生息地の環境条件に変化は生じないことから、施設の存在による影響はないと予測される。		<p>■事業計画に上実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内への緑化：敷地内を積極的に緑化し、周辺環境との調和を図る。 敷地内の照明等：動植物へ配慮した外灯設備を設置する（生物の誘引防止等に留意したタイプを設置する）。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規に設置する施設照明器具への配慮：計画施設の屋外に設置する照明について、周辺樹林への光の漏洩を極力抑えるよう、使用する照明機材の位置等に配慮する。また、夜間の屋外照明の点灯を極力控える。 地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施：事業計画に上実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、工事の実施、施設の存在及び供用が動物へ及ぼす影響はない、または極めて小さく、左記の環境保全措置を講ずることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測結果及び採用する環境保全措置の効果に不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
項目	確認種数																																																																																																																																																																																										
哺乳類	6目 6科 8種																																																																																																																																																																																										
鳥類	11目 28科 57種																																																																																																																																																																																										
両生類	2目 2科 4種																																																																																																																																																																																										
爬虫類	2目 7科 9種																																																																																																																																																																																										
昆虫類・クモ類	16目 180科 544種																																																																																																																																																																																										
陸産貝類	2グループ 8科 14種																																																																																																																																																																																										
底生動物	6綱 14目 23科 32種																																																																																																																																																																																										
分類	確認種数	種名																																																																																																																																																																																									
鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ																																																																																																																																																																																									
両生類	1種	セトウチサンショウウオ																																																																																																																																																																																									
昆虫類・クモ類	2種	コオイムシ、モンスズメバチ																																																																																																																																																																																									
陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属																																																																																																																																																																																									
注目すべき生息地	状況																																																																																																																																																																																										
セトウチサンショウウオの繁殖地を含む湿地・水路	湿地：沢水や雨水等が溜まった環境であり、上流からの水の供給量は少ない。水深は浅く、夏季には表流水が確認できない箇所もある。																																																																																																																																																																																										
水路：上記湿地の末端部であり、下流側は他の水域・水路には接続していない。																																																																																																																																																																																											
分類	種名	工事の実施				存在及び供用																																																																																																																																																																																					
		建設機械の稼働	工事用車両等の走行	土地の改変 直接改変の影響 濁水の影響	施設の存在 移動経路の障害 施設照明の影響	施設の稼働	走行 廃棄物運搬車両等の																																																																																																																																																																																				
鳥類	ミサゴ	△	△	無	△	△	△	△																																																																																																																																																																																			
	ハチクマ	△	△	無	無	△	△	△																																																																																																																																																																																			
	ツミ	/	/	無	無	/	/	/																																																																																																																																																																																			
	ハイタカ	/	/	△	△	/	/	/																																																																																																																																																																																			
	フクロウ	/	/	無	無	/	/	/																																																																																																																																																																																			
	ハヤブサ	/	/	無	無	/	/	/																																																																																																																																																																																			
	サンショウクイ	/	/	無	無	/	/	/																																																																																																																																																																																			
サンコウチョウ	/	/	無	無	/	/	/																																																																																																																																																																																				
両生類	セトウチサンショウウオ	/	/	無	無	存在・供用による影響：無	/	/																																																																																																																																																																																			
昆虫類・クモ類	コオイムシ	/	/	無	無	/	/	/																																																																																																																																																																																			
	モンスズメバチ	/	/	△	△	/	/	/																																																																																																																																																																																			
陸産貝類	ヒメカサキビ	/	/	無	無	存在・供用による影響：無	/	/																																																																																																																																																																																			
	シメクチマイマイ	/	/	無	無	存在・供用による影響：無	/	/																																																																																																																																																																																			
	<i>Satsuma</i> 属	/	/	△	△	存在・供用による影響：無	/	/																																																																																																																																																																																			
予測結果	工事の実施	土地の改変	予測結果																																																																																																																																																																																								
工事の実施	土地の改変	本事業において注目すべき生息地を含む樹林の改変は行わず、当該生息地は対象事業実施区域からの雨水排水経路にもなっていない。このため、土地の改変による注目すべき生息地への影響はないと予測される。																																																																																																																																																																																									
存在及び供用	施設の存在	本事業において注目すべき生息地の環境条件に変化は生じないことから、施設の存在による影響はないと予測される。																																																																																																																																																																																									

表 8-1.17 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																																										
植物（重要な種及び群集並びに注目すべき生息地）	工事の実施（土地の改変）、存在・供用（施設の存在）	<p>■現地調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物相 現況調査において確認された植物（種子植物、シダ植物）は、97科371種であった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="2">秋季</th> <th colspan="2">春季</th> <th colspan="2">夏季</th> <th colspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>科数</th> <th>種数</th> <th>科数</th> <th>種数</th> <th>科数</th> <th>種数</th> <th>科数</th> <th>種数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シダ植物門</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>11</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">種子植物門</td> <td>裸子植物亜門</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>被子植物亜門</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>単子葉類</td> <td>11</td> <td>50</td> <td>12</td> <td>48</td> <td>9</td> <td>37</td> <td>14</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>真正双子葉類</td> <td>56</td> <td>180</td> <td>55</td> <td>186</td> <td>57</td> <td>158</td> <td>65</td> <td>249</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>85</td> <td>269</td> <td>85</td> <td>272</td> <td>82</td> <td>230</td> <td>97</td> <td>371</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 植生 確認された植物群落等は植物群落8群落、土地利用4区分の合計12単位であった。 調査地は落葉広葉樹林及び常緑針葉樹林を含む樹林とグラウンド等や人工構造物を含む人工地に大別でき、樹林が調査範囲の約77%、人工地が約18%を占めている。草地は人工構造物脇等にわずかに分布しており、植林は対象事業実施区域の外周や南側にみられるのみであった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>群落名等</th> <th>No.</th> <th>面積 (ha)</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">一年生草本群落</td> <td>メヒシバ群落</td> <td>1</td> <td>0.06</td> <td>0.24</td> </tr> <tr> <td>カナムグラ群落</td> <td>2</td> <td>0.06</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td>多年生草本群落</td> <td>セイタカアワダチソウ群落</td> <td>3</td> <td>0.08</td> <td>0.29</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">落葉広葉樹林</td> <td>アカメガシワ群落</td> <td>4</td> <td>1.44</td> <td>5.38</td> </tr> <tr> <td>エノキ群落</td> <td>5</td> <td>0.10</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>コナラ群落</td> <td>6</td> <td>15.65</td> <td>58.30</td> </tr> <tr> <td>アベマキ群落</td> <td>7</td> <td>2.90</td> <td>10.81</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>アカマツ群落</td> <td>8</td> <td>0.56</td> <td>2.08</td> </tr> <tr> <td>植林地（竹林）</td> <td>モウソウチク植林</td> <td>9</td> <td>0.63</td> <td>2.36</td> </tr> <tr> <td>植林地（その他）</td> <td>植栽樹林群</td> <td>10</td> <td>0.49</td> <td>1.81</td> </tr> <tr> <td>グラウンド等</td> <td>公園・人工裸地</td> <td>11</td> <td>0.93</td> <td>3.45</td> </tr> <tr> <td>人工構造物</td> <td>道路・建物</td> <td>12</td> <td>3.94</td> <td>14.68</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>26.84</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 重要な種 現況調査の結果、重要な種としてニッケイ1種が確認された。 注目すべき生息地 現況調査において確認された植物群落等のうち、重要な群落に該当する群落は確認されなかった。 	分類	秋季		春季		夏季		合計		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	シダ植物門	13	29	13	29	11	26	13	33	種子植物門	裸子植物亜門	2	4	2	4	2	5	2	5	被子植物亜門	3	6	3	5	3	4	3	7	単子葉類	11	50	12	48	9	37	14	77	真正双子葉類	56	180	55	186	57	158	65	249	合計	85	269	85	272	82	230	97	371	分類	群落名等	No.	面積 (ha)	割合 (%)	一年生草本群落	メヒシバ群落	1	0.06	0.24	カナムグラ群落	2	0.06	0.23	多年生草本群落	セイタカアワダチソウ群落	3	0.08	0.29	落葉広葉樹林	アカメガシワ群落	4	1.44	5.38	エノキ群落	5	0.10	0.36	コナラ群落	6	15.65	58.30	アベマキ群落	7	2.90	10.81	常緑針葉樹林	アカマツ群落	8	0.56	2.08	植林地（竹林）	モウソウチク植林	9	0.63	2.36	植林地（その他）	植栽樹林群	10	0.49	1.81	グラウンド等	公園・人工裸地	11	0.93	3.45	人工構造物	道路・建物	12	3.94	14.68		合計		26.84	100	<p>■予測結果</p> <p>工事の実施（土地の改変）、施設の存在及び供用（施設の存在）が対象事業実施区域及びその周辺に生育する重要な植物へ及ぼす影響について予測した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要な種 ニッケイの確認位置は対象事業実施区域外であり、施設の存在に伴う日照の変化等の影響は、本種の生育環境に及ぼさないことから、影響はないと予測された。 	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内への緑化：敷地内を積極的に緑化し、周辺環境との調和を図る。 敷地内の照明等：動植物へ配慮した外灯設備を設置する。 <p>■事業による影響をさらに低減するための環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施：事業計画に実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、施設の存在及び供用による影響はないと予測された。また、環境保全措置を実施することで事業による影響はさらに低減されるものと考えられる。</p> <p>以上のことから、工事の実施、施設の存在及び供用が植物へ及ぼす影響については、実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測結果及び採用する環境保全措置の効果に不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
分類	秋季			春季		夏季		合計																																																																																																																																								
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数																																																																																																																																								
シダ植物門	13	29	13	29	11	26	13	33																																																																																																																																								
種子植物門	裸子植物亜門	2	4	2	4	2	5	2	5																																																																																																																																							
	被子植物亜門	3	6	3	5	3	4	3	7																																																																																																																																							
	単子葉類	11	50	12	48	9	37	14	77																																																																																																																																							
	真正双子葉類	56	180	55	186	57	158	65	249																																																																																																																																							
合計	85	269	85	272	82	230	97	371																																																																																																																																								
分類	群落名等	No.	面積 (ha)	割合 (%)																																																																																																																																												
一年生草本群落	メヒシバ群落	1	0.06	0.24																																																																																																																																												
	カナムグラ群落	2	0.06	0.23																																																																																																																																												
多年生草本群落	セイタカアワダチソウ群落	3	0.08	0.29																																																																																																																																												
落葉広葉樹林	アカメガシワ群落	4	1.44	5.38																																																																																																																																												
	エノキ群落	5	0.10	0.36																																																																																																																																												
	コナラ群落	6	15.65	58.30																																																																																																																																												
	アベマキ群落	7	2.90	10.81																																																																																																																																												
常緑針葉樹林	アカマツ群落	8	0.56	2.08																																																																																																																																												
植林地（竹林）	モウソウチク植林	9	0.63	2.36																																																																																																																																												
植林地（その他）	植栽樹林群	10	0.49	1.81																																																																																																																																												
グラウンド等	公園・人工裸地	11	0.93	3.45																																																																																																																																												
人工構造物	道路・建物	12	3.94	14.68																																																																																																																																												
	合計		26.84	100																																																																																																																																												

表 8-1.18 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																
生態系（地域を特徴づける生態系）	工事の実施（土地の改変）、存在・供用（施設の存在）	<p>■現地調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物相及び植物相の確認状況は、前述のとおりである。 複数の注目種等の生態、他の動物との関係または生息環境若しくは生育環境の状況 <p>1) 生態系の類型区分 調査地域は、対象事業実施区域を含む工場地帯と落葉広葉樹林や常緑針葉樹林からなる樹林地で構成されている。また、調査地域の周辺は、北側に市街地が広がり、東側、西側、南側は山地に囲まれている。このことから、調査地域を落葉広葉樹や常緑針葉樹が優占する「樹林」、対象事業実施区域を含む「市街地」の2つに類型区分し、主な動植物の確認状況を整理した。</p> <p>2) 注目種の選定及びその生態 動植物その他の自然環境に係る概況調査の結果及び食物連鎖等の関係性の状況を踏まえ、当地域の生態系の機能の特徴づける注目種を「上位性」、「典型性」、「特殊性」の3つの観点から抽出した。 選定した注目種の生態及び現地での確認状況を以下に示す。</p> <p style="text-align: center;">＜選定した注目種・群集の生態＞</p> <table border="1" data-bbox="338 1228 920 1457"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分類</th> <th>種名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上位性</td> <td>哺乳類</td> <td>ホンドテン</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>ハイタカ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">典型性</td> <td>植物</td> <td>コナラ群落</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>ニホンアカガエル</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>スズメ</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 現地踏査の結果、特殊性の動植物は確認されなかった。</p>	区分	分類	種名	上位性	哺乳類	ホンドテン	鳥類	ハイタカ	典型性	植物	コナラ群落	両生類	ニホンアカガエル	鳥類	スズメ	<p>■予測結果</p> <p>工事の実施（土地の改変）、施設の存在及び供用（施設の存在）が対象事業実施区域及びその周辺に生息する重要な動物へ及ぼす影響について予測した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系の生息・生育基盤の改変状況 土地の改変に伴い、環境類型区分（樹林及び市街地）のうち、市街地における生態系の生息・生育環境基盤が減少することから、改変予定範囲の割合について検証を行った。 その結果、改変予定範囲は小規模で、かつ市街地に依存した動植物は確認されていないことから、土地の改変による動植物の生息・生育基盤（動植物の生息・生育環境）への影響は極めて小さいと考えられる。 <p style="text-align: center;">＜環境類型区分毎の改変状況＞</p> <table border="1" data-bbox="970 850 1896 1041"> <thead> <tr> <th rowspan="2">類型区分</th> <th colspan="2">調査地域全体</th> <th colspan="2">改変予定範囲</th> </tr> <tr> <th>面積 (ha) (A)</th> <th>割合</th> <th>面積 (ha) (B)</th> <th>割合 (B/A) × 100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>樹林</td> <td>21.3</td> <td>79.3%</td> <td>0.0</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>市街地</td> <td>5.6</td> <td>20.7%</td> <td>1.0</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>26.8</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 生態系の注目種（上位性、典型性）への影響 生態系の注目種に対する土地の改変及び施設の存在の影響予測結果は以下のとおりである。 予測の結果、生態系の注目種に対する事業の影響はないまたは極めて小さいと予測された。 <p style="text-align: center;">＜注目種の予測結果 概略＞</p> <table border="1" data-bbox="970 1260 1896 1598"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2" rowspan="2">注目種</th> <th rowspan="2">工事の実施 土地の改変</th> <th colspan="2">存在・供用</th> </tr> <tr> <th colspan="2">施設の存在</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <th>移動経路の阻害</th> <th>生育環境条件の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上位性</td> <td>哺乳類</td> <td>ホンドテン</td> <td>△</td> <td>無</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>ハイタカ</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">典型性</td> <td>植物</td> <td>コナラ群落</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>ニホンアカガエル</td> <td>無</td> <td>/</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>スズメ</td> <td>△</td> <td>/</td> <td>無</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 影響要因ごとにその影響程度を整理し、影響が無いものは「無」とし、影響が極めて小さいものは「△」とした。なお、予測対象外の影響要因は「/」で示す。</p> <p>以上のことから、工事の実施、施設の存在及び供用による地域の生態系への影響はない、または極めて小さいと予測された。</p>	類型区分	調査地域全体		改変予定範囲		面積 (ha) (A)	割合	面積 (ha) (B)	割合 (B/A) × 100%	樹林	21.3	79.3%	0.0	0.0%	市街地	5.6	20.7%	1.0	17.8%	合計	26.8	100.0%	-	-	区分	注目種		工事の実施 土地の改変	存在・供用		施設の存在						移動経路の阻害	生育環境条件の変化	上位性	哺乳類	ホンドテン	△	無	/	鳥類	ハイタカ	△	△	/	典型性	植物	コナラ群落	無	/	△	両生類	ニホンアカガエル	無	/	無	鳥類	スズメ	△	/	無	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内への緑化：敷地内を積極的に緑化し、周辺環境との調和を図る。 敷地内の照明等：動植物へ配慮した外灯設備を設置する（生物の誘引防止等に留意したタイプを設置する）。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規に設置する施設照明器具への配慮：計画施設の屋外に設置する照明について、周辺樹林への光の漏洩を極力抑えるよう、使用する照明機材の位置等に配慮する。また、夜間の屋外照明の点灯を極力控える。 地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施：事業計画に実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、土地の改変により生態系の注目種（ホンドテン、スズメ）の生息環境基盤が一時的に影響を受ける可能性があるが、その程度は小さく、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
区分	分類	種名																																																																																				
上位性	哺乳類	ホンドテン																																																																																				
	鳥類	ハイタカ																																																																																				
典型性	植物	コナラ群落																																																																																				
	両生類	ニホンアカガエル																																																																																				
	鳥類	スズメ																																																																																				
類型区分	調査地域全体		改変予定範囲																																																																																			
	面積 (ha) (A)	割合	面積 (ha) (B)	割合 (B/A) × 100%																																																																																		
樹林	21.3	79.3%	0.0	0.0%																																																																																		
市街地	5.6	20.7%	1.0	17.8%																																																																																		
合計	26.8	100.0%	-	-																																																																																		
区分	注目種		工事の実施 土地の改変	存在・供用																																																																																		
				施設の存在																																																																																		
				移動経路の阻害	生育環境条件の変化																																																																																	
上位性	哺乳類	ホンドテン	△	無	/																																																																																	
	鳥類	ハイタカ	△	△	/																																																																																	
典型性	植物	コナラ群落	無	/	△																																																																																	
	両生類	ニホンアカガエル	無	/	無																																																																																	
	鳥類	スズメ	△	/	無																																																																																	

表 8-1.19 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																
景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）	存在・供用（施設の存在）	<p>■現地調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点の状況 対象事業実施区域及びその周辺の景観特性は、丘陵地部の樹林地と低地部の農地、ため池等の自然的な景観と、低地部を中心とした住宅、道路等の市街地的な景観により構成される。また、対象事業実施区域には既存の焼却施設が立地しており、その北側地域からは工場棟及び煙突が視認でき、地域のランドマーク的な存在となっている。 ・主要な眺望点の選定 対象事業実施区域は丘陵地に位置しており、北側の近傍集落においては多くの人々により視認の可能性がある。また、周辺の山地山頂から、対象事業実施区域が視認できる可能性が考えられることから主要な眺望点として、St.1（北側交差点）、St.2（柴木天神山頂上）、St.3（毛野無羅山頂上）、St.4（茶臼山頂上）の4点を設定した。 ・景観資源の状況 対象事業実施区域周辺の景観資源いずれの景観資源も対象事業実施区域から離れており、計画施設による視認性の影響は受けない。 <p>＜景観資源の状況＞</p> <table border="1" data-bbox="317 1360 792 1587"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>龍城院</td> <td>寺院</td> </tr> <tr> <td>大浦神社</td> <td>神社</td> </tr> <tr> <td>里庄駅付近の風景（夕方）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>里庄町立図書館</td> <td>図書館</td> </tr> </tbody> </table>	名称	種類	龍城院	寺院	大浦神社	神社	里庄駅付近の風景（夕方）		里庄町立図書館	図書館	<p>■予測結果</p> <p>供用後の施設の存在が対象事業実施区域周辺の眺望景観へ及ぼす影響について予測した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点及び景観資源の分布への改変 主要な眺望点及び景観資源の分布位置は、対象事業実施区域から十分はなれており、主要な眺望点及び景観資源の改変は行わない。このため、計画施設による主要な眺望点及び景観資源の分布への影響はないと予測される。 ・主要な眺望景観の変化 計画施設は、煙突の高さ59m、工場棟建屋の高さ30mを想定しており、周辺の施設及び樹林より高くなることから周辺からの視認が推定される。 現況調査の結果を踏まえ、主要な眺望点からの視認状況の変化について予測した結果、St.1は現施設が既にスカイラインを切断していることから、大幅な景観の変化は生じないと予測され、また、St.3は指標を下回る結果となった。なお、St.2及びSt.4からは計画施設が視認されなかった。 以上のことから、主要眺望点の代表地点における圧迫感等の変化は、全ての地点で小さいと予測された。 <p>＜眺望景観の変化指標の予測結果(St.1)＞</p> <table border="1" data-bbox="822 1056 1914 1392"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測値</th> <th>影響の程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設からの方角</td> <td>北</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>視距離</td> <td>450m</td> <td>近景にあたり計画施設が景観に含まれる。</td> </tr> <tr> <td>水平見込角</td> <td>6.8度</td> <td>10度を超えず目立たない。</td> </tr> <tr> <td>垂直見込角</td> <td>4.9度</td> <td>景観的にも大きな影響があるものの、圧迫感はあまり受けない。</td> </tr> <tr> <td>仰角</td> <td>4.9度</td> <td>15度より小さく圧迫感を生じさせない。</td> </tr> <tr> <td>スカイラインの切断</td> <td>あり</td> <td>現施設と同様に、計画施設の煙突がスカイラインを切断する。ただし、現施設が既にスカイラインを切断していることから、大幅な景観の変化は生じない。</td> </tr> <tr> <td>シルエット比</td> <td>0.29</td> <td>1/2 (0.5) 以下であり景観に混乱を生じさせない。</td> </tr> <tr> <td>総合評価</td> <td>影響は小さい</td> <td>計画施設が視認されるが、圧迫感は生じさせないことから、影響は小さい。</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜眺望景観の変化指標の予測結果(St.3)＞</p> <table border="1" data-bbox="822 1461 1914 1797"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測値</th> <th>影響の程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設からの方角</td> <td>西</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>視距離</td> <td>1,400m</td> <td>遠景にあたり、計画施設の煙突の一部が景観に含まれる。</td> </tr> <tr> <td>水平見込角</td> <td>0.2度</td> <td>10度を超えず目立たない。</td> </tr> <tr> <td>垂直見込角</td> <td>0.5度</td> <td>輪郭がやっとわかる程度である。</td> </tr> <tr> <td>仰角</td> <td>0.5度</td> <td>15度より小さく圧迫感を生じさせない。</td> </tr> <tr> <td>スカイラインの切断</td> <td>なし</td> <td>計画施設の煙突が後方に位置する尾根より低いためスカイラインを切断しない</td> </tr> <tr> <td>スケール比</td> <td>0.38</td> <td>1/2 (0.5) 以下であり景観に混乱を生じさせない。</td> </tr> <tr> <td>総合評価</td> <td>影響は極めて小さい</td> <td>将来、計画施設の煙突が視認されるが、目立たず輪郭がやっとわかる程度であるため景観への影響は極めて小さい。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測値	影響の程度	施設からの方角	北	—	視距離	450m	近景にあたり計画施設が景観に含まれる。	水平見込角	6.8度	10度を超えず目立たない。	垂直見込角	4.9度	景観的にも大きな影響があるものの、圧迫感はあまり受けない。	仰角	4.9度	15度より小さく圧迫感を生じさせない。	スカイラインの切断	あり	現施設と同様に、計画施設の煙突がスカイラインを切断する。ただし、現施設が既にスカイラインを切断していることから、大幅な景観の変化は生じない。	シルエット比	0.29	1/2 (0.5) 以下であり景観に混乱を生じさせない。	総合評価	影響は小さい	計画施設が視認されるが、圧迫感は生じさせないことから、影響は小さい。	項目	予測値	影響の程度	施設からの方角	西	—	視距離	1,400m	遠景にあたり、計画施設の煙突の一部が景観に含まれる。	水平見込角	0.2度	10度を超えず目立たない。	垂直見込角	0.5度	輪郭がやっとわかる程度である。	仰角	0.5度	15度より小さく圧迫感を生じさせない。	スカイラインの切断	なし	計画施設の煙突が後方に位置する尾根より低いためスカイラインを切断しない	スケール比	0.38	1/2 (0.5) 以下であり景観に混乱を生じさせない。	総合評価	影響は極めて小さい	将来、計画施設の煙突が視認されるが、目立たず輪郭がやっとわかる程度であるため景観への影響は極めて小さい。	<p>■事業計画で実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化の実施：敷地周辺において緑化等を行う等、周辺環境との調和を図る。 ・周辺の景観へ配慮したデザイン：建屋及び煙突等は、美観に配慮した調和の取れたデザイン及び仕上げとする。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造物意匠の検討：「晴れの国おかやま景観計画」（平成20年4月、岡山県）との整合を図り、建屋及び煙突の配色等に配慮する。 <p>＜フォトモンタージュにより景観の変化事例：(夏季)＞</p>  <p>＜フォトモンタージュにより景観の変化事例：(夏季)＞</p> 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに左記の環境保全措置を踏まえると、施設の存在に伴う対象事業実施区域の近傍からの眺望景観へ及ぼす影響については、環境保全措置を講じることにより低減が期待できるものと考えられる。なお、環境保全措置の具体の検討にあたっては、景観計画との整合に留意し、地域景観の統一性に配慮する。</p> <p>このことから、施設の存在が景観へ及ぼす影響について、事業者の実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→要」</p> <p>計画施設の配色及び配置計画が未確定であることから、供用後の施設の存在に係る事後調査を実施する。</p>
名称	種類																																																																					
龍城院	寺院																																																																					
大浦神社	神社																																																																					
里庄駅付近の風景（夕方）																																																																						
里庄町立図書館	図書館																																																																					
項目	予測値	影響の程度																																																																				
施設からの方角	北	—																																																																				
視距離	450m	近景にあたり計画施設が景観に含まれる。																																																																				
水平見込角	6.8度	10度を超えず目立たない。																																																																				
垂直見込角	4.9度	景観的にも大きな影響があるものの、圧迫感はあまり受けない。																																																																				
仰角	4.9度	15度より小さく圧迫感を生じさせない。																																																																				
スカイラインの切断	あり	現施設と同様に、計画施設の煙突がスカイラインを切断する。ただし、現施設が既にスカイラインを切断していることから、大幅な景観の変化は生じない。																																																																				
シルエット比	0.29	1/2 (0.5) 以下であり景観に混乱を生じさせない。																																																																				
総合評価	影響は小さい	計画施設が視認されるが、圧迫感は生じさせないことから、影響は小さい。																																																																				
項目	予測値	影響の程度																																																																				
施設からの方角	西	—																																																																				
視距離	1,400m	遠景にあたり、計画施設の煙突の一部が景観に含まれる。																																																																				
水平見込角	0.2度	10度を超えず目立たない。																																																																				
垂直見込角	0.5度	輪郭がやっとわかる程度である。																																																																				
仰角	0.5度	15度より小さく圧迫感を生じさせない。																																																																				
スカイラインの切断	なし	計画施設の煙突が後方に位置する尾根より低いためスカイラインを切断しない																																																																				
スケール比	0.38	1/2 (0.5) 以下であり景観に混乱を生じさせない。																																																																				
総合評価	影響は極めて小さい	将来、計画施設の煙突が視認されるが、目立たず輪郭がやっとわかる程度であるため景観への影響は極めて小さい。																																																																				

表 8-1.20 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																
人と自然との触れ合いの活動の場（主要な人と自然との触れ合いの活動の場）	存在の供用（建設機械の稼働、工事用車両等の走行）	<p>■現地調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と自然との触れ合いの活動の場の概況 既存資料の収集・整理を行うとともに、対象事業実施区域及びその周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の現況を把握し、予測に係る基礎資料を得るため、現地調査を実施した各地点における利用状況等の概況は下表のとおりである。 <table border="1" data-bbox="350 682 1261 1155"> <caption><柴木天神山頂上付近></caption> <thead> <tr> <th>地点名</th> <th>柴木天神山頂上付近</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点の概況</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東側に位置する柴木天神山頂上付近に位置する地点である。 柴木天神山の尾根上には登山道（備南アルプス縦走路）が整備されている。 頂上付近は樹林に被覆されており、眺望はない。 </td> </tr> <tr> <td>周辺の状況</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 登山道周辺は落葉広葉樹林であり、一部竹林内を通る区間も見られる。 登山道の入り口には登山口であることを示す看板が設置されている。 登山道の入り口は耕作地及び町道に接続している。 登山道入り口付近に駐車場、駐輪場、公共の交通機関の停留所等は整備されていない。 </td> </tr> <tr> <td>利用状況</td> <td>調査期間中に本登山道を利用する人の状況は確認されておらず、利用頻度は低いものと推測される。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="350 1197 1261 1774"> <caption><茶白山頂上付近></caption> <thead> <tr> <th>地点名</th> <th>茶白山頂上付近</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地点の概況</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の南西側に位置する茶白山頂上付近に位置する地点である。 茶白山の尾根上及び斜面上には登山道（備南アルプス縦走路）が整備されている。 頂上付近は樹林に被覆されており眺望はほとんどないが、冬季は落葉が進み、秋季と比較すると周辺を見わたしやすくなる。 </td> </tr> <tr> <td>周辺の状況</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 登山道の入り口には登山口であることを示す看板が設置されている。 急傾斜地には登山用のロープが整備されている。 登山道の一方の入り口は町道に接続しており、もう一方は毛野無羅山等の尾根に続いている。 登山道入り口付近に駐車場、駐輪場、公共の交通機関の停留所等は整備されていない。 </td> </tr> <tr> <td>利用状況</td> <td>調査期間中に本登山道を利用する人の状況は確認されておらず、利用頻度は低いものと推測される。</td> </tr> </tbody> </table>	地点名	柴木天神山頂上付近	地点の概況	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東側に位置する柴木天神山頂上付近に位置する地点である。 柴木天神山の尾根上には登山道（備南アルプス縦走路）が整備されている。 頂上付近は樹林に被覆されており、眺望はない。 	周辺の状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山道周辺は落葉広葉樹林であり、一部竹林内を通る区間も見られる。 登山道の入り口には登山口であることを示す看板が設置されている。 登山道の入り口は耕作地及び町道に接続している。 登山道入り口付近に駐車場、駐輪場、公共の交通機関の停留所等は整備されていない。 	利用状況	調査期間中に本登山道を利用する人の状況は確認されておらず、利用頻度は低いものと推測される。	地点名	茶白山頂上付近	地点の概況	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の南西側に位置する茶白山頂上付近に位置する地点である。 茶白山の尾根上及び斜面上には登山道（備南アルプス縦走路）が整備されている。 頂上付近は樹林に被覆されており眺望はほとんどないが、冬季は落葉が進み、秋季と比較すると周辺を見わたしやすくなる。 	周辺の状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山道の入り口には登山口であることを示す看板が設置されている。 急傾斜地には登山用のロープが整備されている。 登山道の一方の入り口は町道に接続しており、もう一方は毛野無羅山等の尾根に続いている。 登山道入り口付近に駐車場、駐輪場、公共の交通機関の停留所等は整備されていない。 	利用状況	調査期間中に本登山道を利用する人の状況は確認されておらず、利用頻度は低いものと推測される。	<p>■予測結果</p> <p>工事の実施、施設が存在及び供用が対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合いの活動の場へ及ぼす影響について定性的に予測した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 柴木天神山頂上付近 柴木天神山頂上付近は、対象事業実施区域に近接しているが、利用環境は改変を受けず、活動範囲に変化はない。また、利用環境も維持されることから利用性の変化も生じない。 建設機械の稼働等に伴う騒音、施設の稼働に伴う騒音及び悪臭の影響は環境保全目標または基準を満足すると予測されることから、施設の稼働による人と自然との触れ合いの活動の場の影響は極めて小さいと予測される。なお、眺望景観の変化による快適性の変化の影響もほとんど生じないものと予測される。 茶白山頂上付近 茶白山頂上付近は、対象事業実施区域に近接しているが、利用環境は改変を受けず、活動範囲に変化はない。また、利用環境も維持されることから利用性の変化も生じない。 建設機械の稼働等に伴う騒音、施設の稼働に伴う騒音及び悪臭の影響は環境保全目標または基準を満足すると予測されることから、施設の稼働による人と自然との触れ合いの活動の場の影響は極めて小さいと予測される。なお、眺望景観の変化による快適性の変化の影響もほとんど生じないものと予測される。 	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 低騒音型建設機械の使用：騒音の発生が小さい建設機械の使用に努める。 使用建設機械の整備・点検の徹底：機器の整備、点検を徹底し異常な騒音の発生を抑制する。 アイドリングストップ：不要なアイドリングや空ぶかしをしないようにし、騒音を低減する。 建設機械の稼働分散：建設機械の集中稼働を避け騒音を低減する。 仮囲いの設置：工事にあたっては周囲の可能な範囲に仮囲いを設置し騒音を低減する。 <p>■予測結果をふまえて検討した環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音発生機器の配慮：施設の機器についてはできる限り低騒音型の設備機器を採用することで発生騒音を低減する。また、大きな騒音を発生する機器は防音構造の室内に収納し、必要に応じて防音対策を行う。 建造物の意匠の検討：「晴れの国おかやま景観計画」（平成20年4月、岡山県）との整合を図るとともに、建屋及び煙突の配色等に配慮する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、工事の実施、施設が存在及び供用が人と自然との触れ合いの活動の場へ及ぼす影響については、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>事業計画との重ね合わせにより行った予測の不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果にも不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
地点名	柴木天神山頂上付近																					
地点の概況	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東側に位置する柴木天神山頂上付近に位置する地点である。 柴木天神山の尾根上には登山道（備南アルプス縦走路）が整備されている。 頂上付近は樹林に被覆されており、眺望はない。 																					
周辺の状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山道周辺は落葉広葉樹林であり、一部竹林内を通る区間も見られる。 登山道の入り口には登山口であることを示す看板が設置されている。 登山道の入り口は耕作地及び町道に接続している。 登山道入り口付近に駐車場、駐輪場、公共の交通機関の停留所等は整備されていない。 																					
利用状況	調査期間中に本登山道を利用する人の状況は確認されておらず、利用頻度は低いものと推測される。																					
地点名	茶白山頂上付近																					
地点の概況	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の南西側に位置する茶白山頂上付近に位置する地点である。 茶白山の尾根上及び斜面上には登山道（備南アルプス縦走路）が整備されている。 頂上付近は樹林に被覆されており眺望はほとんどないが、冬季は落葉が進み、秋季と比較すると周辺を見わたしやすくなる。 																					
周辺の状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山道の入り口には登山口であることを示す看板が設置されている。 急傾斜地には登山用のロープが整備されている。 登山道の一方の入り口は町道に接続しており、もう一方は毛野無羅山等の尾根に続いている。 登山道入り口付近に駐車場、駐輪場、公共の交通機関の停留所等は整備されていない。 																					
利用状況	調査期間中に本登山道を利用する人の状況は確認されておらず、利用頻度は低いものと推測される。																					

表 8-1.21 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																																																																																																																												
廃棄物等	工事の実施（土地の改変）	<p>■既存資料の整理及び事業計画に基づく調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の実施に伴う建設副産物 工事の実施により発生する建設副産物、施設の供用により発生する廃棄物等を把握するため、既存資料の収集・整理を行った。工事の主な内容は、「旧ごみ焼却施設の地下埋設物の撤去」、「建設工事」である。 建設工事に伴う建設副産物の種類及び発生量の推計結果は下表に示すとおりである。 <table border="1"> <caption><建設工事に伴う建設副産物の種類及び発生量></caption> <thead> <tr> <th>工事</th> <th>対象施設</th> <th>種類</th> <th>発生量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">造成工事</td> <td rowspan="2">地下埋設物（PC杭：約55m³、鋼杭：約79m³）</td> <td>コンクリート塊</td> <td>129.7 t</td> </tr> <tr> <td>鉄くず</td> <td>88.9 t</td> </tr> <tr> <td>建設工事</td> <td>ごみ焼却施設</td> <td>建設発生土</td> <td>約 10,500 m³</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> その他の建設副産物 施設建設に伴い発生するその他の建設副産物について、主要な計画施設の延床面積から建設副産物発生量を推定した。その結果、合計 233t の建設副産物の発生が想定された。 <table border="1"> <caption><主要施設の床面積と建設混合廃棄物の発生量></caption> <thead> <tr> <th>主要施設</th> <th>建物面積（m²）</th> <th>階数</th> <th>延床面積（m²）</th> <th>建設工事排出原単位（t/m²）</th> <th>建設副産物発生量（t）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ごみ焼却施設</td> <td>3,018</td> <td>地下1階～5階</td> <td>12,220</td> <td rowspan="3">0.018</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>管理棟</td> <td>243</td> <td>3階</td> <td>729</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,261</td> <td>—</td> <td>12,949</td> <td>—</td> <td>233</td> </tr> </tbody> </table>	工事	対象施設	種類	発生量	造成工事	地下埋設物（PC杭：約55m ³ 、鋼杭：約79m ³ ）	コンクリート塊	129.7 t	鉄くず	88.9 t	建設工事	ごみ焼却施設	建設発生土	約 10,500 m ³	主要施設	建物面積（m ² ）	階数	延床面積（m ² ）	建設工事排出原単位（t/m ² ）	建設副産物発生量（t）	ごみ焼却施設	3,018	地下1階～5階	12,220	0.018	220	管理棟	243	3階	729	13	合計	3,261	—	12,949	—	233	<p>■予測結果</p> <p>予測は、工事の実施に伴い、発生が見込まれる廃棄物等の種類及び発生量と、発生する廃棄物の適正な処理・処分の方法を整理するとともに、再利用または再資源化等の環境保全措置の計画を踏まえ、廃棄物等の発生に伴う影響の程度について定行的に行った。 工事に伴う建設副産物の発生量は下表に示すとおり、315.82t の廃棄物及び約 10,500m³ の建設発生土が再資源化または再利用等され、最終処分量は 135.78t になると予測する。</p> <table border="1"> <caption><工事に伴う建設副産物の種類及び発生量></caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">廃棄物等種類</th> <th colspan="3">発生量</th> <th rowspan="2">再資源化率</th> <th rowspan="2">再資源化量</th> <th rowspan="2">最終処分量</th> </tr> <tr> <th>造成工事</th> <th>建設工事</th> <th>建築工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートがら</td> <td>129.7t</td> <td>—</td> <td>58.25t</td> <td>99.4%</td> <td>186.82t</td> <td>1.13t</td> </tr> <tr> <td>アスファルトコンクリート</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>13.98t</td> <td>99.7%</td> <td>13.94t</td> <td>0.04t</td> </tr> <tr> <td>ガラス陶磁器</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>11.65t</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>11.65t</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>18.64t</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>18.64t</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>88.9t</td> <td>—</td> <td>13.98t</td> <td>45.5%</td> <td>46.81t</td> <td>56.07t</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>30.29t</td> <td>96.4%</td> <td>29.20t</td> <td>1.09t</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>16.31t</td> <td>96.4%</td> <td>15.72t</td> <td>0.59t</td> </tr> <tr> <td>石膏ボード*</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>18.64t</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>18.64t</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>51.26t</td> <td>45.5%</td> <td>23.32t</td> <td>27.94t</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>218.6t</td> <td>—</td> <td>233t</td> <td>69.9%</td> <td>315.82t</td> <td>135.78t</td> </tr> <tr> <td>建設発生土</td> <td>—</td> <td>約 10,500m³</td> <td>—</td> <td>100%</td> <td>約 10,500m³</td> <td>0m³</td> </tr> </tbody> </table> <p>注）再資源化率は、「平成30年度建設副産物実態調査結果【参考資料】」（令和2年1月、国土交通省総合政策局発表）より、中国地方ブロックにおける建設副産物の再資源化率等を当てはめた。</p>	廃棄物等種類	発生量			再資源化率	再資源化量	最終処分量	造成工事	建設工事	建築工事	コンクリートがら	129.7t	—	58.25t	99.4%	186.82t	1.13t	アスファルトコンクリート	—	—	13.98t	99.7%	13.94t	0.04t	ガラス陶磁器	—	—	11.65t	—	—	11.65t	廃プラスチック	—	—	18.64t	—	—	18.64t	金属くず	88.9t	—	13.98t	45.5%	46.81t	56.07t	木くず	—	—	30.29t	96.4%	29.20t	1.09t	紙くず	—	—	16.31t	96.4%	15.72t	0.59t	石膏ボード*	—	—	18.64t	—	—	18.64t	その他	—	—	51.26t	45.5%	23.32t	27.94t	計	218.6t	—	233t	69.9%	315.82t	135.78t	建設発生土	—	約 10,500m ³	—	100%	約 10,500m ³	0m ³	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設発生土の再利用：土地の改変に伴う発生土砂は、地盤高の調整に用いる等、場内で利用し、原則的に場外搬出を行わない。 建設副産物の再資源化の徹底：施設の建設に伴い発生する建設副産物は、分別し再資源化を徹底する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、土地の改変に伴う廃棄物等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測では公表されている原単位等を用いており不確実性は小さく、また、採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
		工事	対象施設	種類	発生量																																																																																																																													
造成工事	地下埋設物（PC杭：約55m ³ 、鋼杭：約79m ³ ）	コンクリート塊	129.7 t																																																																																																																															
		鉄くず	88.9 t																																																																																																																															
建設工事	ごみ焼却施設	建設発生土	約 10,500 m ³																																																																																																																															
主要施設	建物面積（m ² ）	階数	延床面積（m ² ）	建設工事排出原単位（t/m ² ）	建設副産物発生量（t）																																																																																																																													
ごみ焼却施設	3,018	地下1階～5階	12,220	0.018	220																																																																																																																													
管理棟	243	3階	729		13																																																																																																																													
合計	3,261	—	12,949		—	233																																																																																																																												
廃棄物等種類	発生量			再資源化率	再資源化量	最終処分量																																																																																																																												
	造成工事	建設工事	建築工事																																																																																																																															
コンクリートがら	129.7t	—	58.25t	99.4%	186.82t	1.13t																																																																																																																												
アスファルトコンクリート	—	—	13.98t	99.7%	13.94t	0.04t																																																																																																																												
ガラス陶磁器	—	—	11.65t	—	—	11.65t																																																																																																																												
廃プラスチック	—	—	18.64t	—	—	18.64t																																																																																																																												
金属くず	88.9t	—	13.98t	45.5%	46.81t	56.07t																																																																																																																												
木くず	—	—	30.29t	96.4%	29.20t	1.09t																																																																																																																												
紙くず	—	—	16.31t	96.4%	15.72t	0.59t																																																																																																																												
石膏ボード*	—	—	18.64t	—	—	18.64t																																																																																																																												
その他	—	—	51.26t	45.5%	23.32t	27.94t																																																																																																																												
計	218.6t	—	233t	69.9%	315.82t	135.78t																																																																																																																												
建設発生土	—	約 10,500m ³	—	100%	約 10,500m ³	0m ³																																																																																																																												
存在・供用	施設（施設の稼働）	<p>・施設の稼働に伴う廃棄物の発生量 施設稼働後に発生が見込まれる廃棄物の種類及び発生量と、発生する廃棄物の適正な処理・処分の方法について事業計画を基に整理を行った。 施設の稼働に伴い発生する主な廃棄物には、ごみの焼却処理における焼却残渣（主灰、飛灰）で、合計で約 3,400t/年となる計画である。</p> <table border="1"> <caption><施設の稼働に伴う廃棄物の発生量と処分内容></caption> <thead> <tr> <th>廃棄物等の種類</th> <th>発生量（t/年）</th> <th>処分内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>焼却残渣（主灰、飛灰）</td> <td>約 3,400</td> <td>埋立</td> </tr> </tbody> </table>	廃棄物等の種類	発生量（t/年）	処分内容	焼却残渣（主灰、飛灰）	約 3,400	埋立	<p>■予測結果</p> <p>供用後の施設の稼働に伴い発生する廃棄物等による影響について予測を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働に伴い発生する廃棄物の処分内容 施設の稼働に伴って発生する焼却残渣の量は約 3,400t/年であり、現在整備中の処分先の最終処分場に搬入し適切に処分を行う。なお、本事業の稼働期間中に埋立完了となった場合には、現在整備中の最終処分場の次に整備する最終処分場（以下、「次期最終処分場」）に埋立を行う計画であり、次期最終処分場の詳細については、今後計画的に検討し事業を進める計画であることから、焼却残渣は適正に処理・処分することができるものと予測する。 	<p>■事業計画に実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 磁選機の設置：焼却灰から鉄等の金属類を回収することで、ごみの再資源化を図る。 ■予測結果をふまえて検討した環境保全措置 分別・減量化の促進：分別回収の徹底及びごみ減量化の取り組みを推進する。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働に伴う廃棄物等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>																																																																																																																						
		廃棄物等の種類	発生量（t/年）	処分内容																																																																																																																														
焼却残渣（主灰、飛灰）	約 3,400	埋立																																																																																																																																

表 8-1.22 環境影響評価の一覧

環境要素	環境影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置	評価結果	事後調査																								
温室効果ガス等	工事の実施（建設機械の稼働、工事用車両の走行）	<p>■既存資料の整理及び事業計画に基づく調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス等発生が予想される要因 工事の実施及び施設の稼働により発生する二酸化炭素等の温室効果ガスの状況を把握するため、既存資料の収集・整理を行った。 工事の実施及び施設の供用時に温室効果ガス等の発生が予想される各区分の発生要因は以下のとおりである。 <p style="text-align: center;">＜温室効果ガスの発生要因＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>発生要因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工事の実施</td> <td>建設機械の稼働</td> </tr> <tr> <td>工事用車両の走行</td> </tr> <tr> <td>建設副産物の焼却</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">施設の供用</td> <td>廃棄物運搬車両等の走行</td> </tr> <tr> <td>ごみの焼却</td> </tr> <tr> <td>施設の稼働（電気使用）</td> </tr> <tr> <td>施設の稼働（燃料使用）</td> </tr> <tr> <td>施設の稼働（発電）</td> </tr> </tbody> </table>	区分	発生要因	工事の実施	建設機械の稼働	工事用車両の走行	建設副産物の焼却	施設の供用	廃棄物運搬車両等の走行	ごみの焼却	施設の稼働（電気使用）	施設の稼働（燃料使用）	施設の稼働（発電）	<p>■予測結果</p> <p>予測は、温室効果ガス等が発生する工事の実施期間及び施設の稼働が通常の状態に達した時期とし、各発生要因から排出される温室効果ガスの発生量をマニュアルに基づき算定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の実施により排出される温室効果ガス 工事の実施により排出される温室効果ガスの算出条件を次のとおりとし、予測を行った。 <p>建設機械の稼働は、工事期間中の建設機械の種類、台数に基づき使用する燃料を軽油として燃料使用量から排出量を求めた。</p> <p>工事用車両の走行は、通勤及び工事用車両の月別稼働台数に基づき工事期間中の発生車両台数を求め、車両の走行距離と速度を最大（最悪）条件として車両からの排出量を求めた。</p> <p>建設副産物の焼却は、評価項目の「廃棄物」で予測した発生する廃棄物のうち、焼却処理が想定される廃棄物を対象とし、焼却に伴う発生量を求めた。</p> <p>算出した各項目の温室効果ガスの発生量は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">＜工事の実施による温室効果ガスの排出量 予測結果＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>温室効果ガス (tCO₂)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設機械の稼働</td> <td>28,298</td> </tr> <tr> <td>工事用車両の走行</td> <td>1,532</td> </tr> <tr> <td>建設副産物の焼却</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>29,884</td> </tr> </tbody> </table>	項目	温室効果ガス (tCO ₂)	建設機械の稼働	28,298	工事用車両の走行	1,532	建設副産物の焼却	54	合計	29,884	<p>■事業計画で実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガスの削減に配慮した工事：工事用車両のエコドライブの促進、建設機械及び工事用車両の整備・点検の徹底、省エネルギー性に優れる工法、低排出型建設機械及び工事用車両の採用の促進など、温室効果ガスの削減に配慮した工事計画とする。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、工事の実施（建設機械の稼働及び工事用車両の走行）に伴う温室効果ガス等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測結果及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>		
	区分	発生要因																												
工事の実施	建設機械の稼働																													
	工事用車両の走行																													
	建設副産物の焼却																													
施設の供用	廃棄物運搬車両等の走行																													
	ごみの焼却																													
	施設の稼働（電気使用）																													
	施設の稼働（燃料使用）																													
施設の稼働（発電）																														
項目	温室効果ガス (tCO ₂)																													
建設機械の稼働	28,298																													
工事用車両の走行	1,532																													
建設副産物の焼却	54																													
合計	29,884																													
	存在・供用（施設の稼働、廃棄物運搬車両の走行）	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測結果及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働及び廃棄物運搬車両等の走行により排出される温室効果ガス <p>施設の稼働及び廃棄物運搬車両等の走行により排出される温室効果ガスの算出条件を次のとおりとし、予測を行った。</p> <p>廃棄物運搬車両の走行は、既存施設での現況等を踏まえて設定し、車両の走行距離と速度を最大（最悪）条件として車両からの排出量を求めた。</p> <p>ごみの焼却による二酸化炭素の排出量は、焼却量に単位量あたりのCO₂、N₂O、CH₄に各排出係数を乗じてこれを合計して求めた。また、稼働に伴い使用する燃料及び電力量からの排出量を求めた。</p> <p>焼却に伴う発電量については、温室効果ガスの削減量として加算できることから、控除量を求めた。</p> <p>施設の稼働により温室効果ガスの予測結果は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">＜温室効果ガス予測結果（施設の稼働）概略＞</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">発生要因</th> <th colspan="2">温室効果ガス (tCO₂/年)</th> </tr> <tr> <th>既存施設</th> <th>計画施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">排出量</td> <td>廃棄物運搬車両の走行</td> <td rowspan="4">32,896</td> <td>1,449</td> </tr> <tr> <td>ごみの焼却</td> <td>23,384</td> </tr> <tr> <td>施設の稼働（電気使用）</td> <td>3,426</td> </tr> <tr> <td>施設の稼働（燃料使用）</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>削減量</td> <td>発電</td> <td>0</td> <td>7,835</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収支（排出量－削減量）</td> <td>32,896</td> <td>20,513</td> </tr> </tbody> </table>	区分	発生要因	温室効果ガス (tCO ₂ /年)		既存施設	計画施設	排出量	廃棄物運搬車両の走行	32,896	1,449	ごみの焼却	23,384	施設の稼働（電気使用）	3,426	施設の稼働（燃料使用）	89	削減量	発電	0	7,835	収支（排出量－削減量）		32,896	20,513	<p>■事業計画で実施することとしている環境保全措置</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギーの有効利用：新施設はごみの焼却によって発生する熱エネルギーを回収し、発電及び熱利用など有効利用する計画とすることで、温室効果ガスの低減を図る。 予測結果をふまえて検討した環境保全措置 エネルギー回収の促進：エネルギー回収を増加させるため、排ガスの低温域まで熱回収が可能な低温エコノマイザを設置することで、ボイラ部の熱効率を向上させる。また、排ガス再循環システムによりエネルギー回収効率の向上に努める。 	<p>■環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p>調査及び予測の結果、並びに環境保全措置を踏まえると、施設の稼働及び廃棄物運搬車両等の走行に伴う温室効果ガス等の影響は、左記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。</p>	<p>■事後調査の要否「→否」</p> <p>予測結果及び採用する環境保全措置の効果に不確実性はほとんどないと考えられることから、事後調査は実施しない。</p>
区分	発生要因	温室効果ガス (tCO ₂ /年)																												
		既存施設	計画施設																											
排出量	廃棄物運搬車両の走行	32,896	1,449																											
	ごみの焼却		23,384																											
	施設の稼働（電気使用）		3,426																											
	施設の稼働（燃料使用）		89																											
削減量	発電	0	7,835																											
収支（排出量－削減量）		32,896	20,513																											